

Veritas Appliance 管理ガイド

NetBackup Appliance 4.1

(Appliance Management Server 1.4.2)

Veritas Appliance 管理ガイド

最終更新日: 2021-07-19

法的通知と登録商標

Copyright © 2021 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、この文書の供給、履行、または使用に関連して付随的または間接的に起こる損害に対して責任を負いません。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、ベリタスがオンプレミスサービスまたはホストサービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の **Web** サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通（日本を除く）

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、ベリタスの **Web** サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/dpp.Appliances.html

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

APPL.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの **Service and Operations Readiness Tools (SORT)** は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	概要	8
	概要	8
	Appliance Management Server 1.4.2 で導入された変更	9
	Appliance Management Console について	9
	Appliance Management Server について	10
	アプライアンス管理エージェントについて	11
	AMS とエージェントのトポロジについて	12
第 2 章	AMS としてのアプライアンス	14
	AMS としてのアプライアンスの構成について	14
	AMS としてのアプライアンスの構成	15
	AMS の構成解除	16
	AMS ユーザーロールについて	16
	ユーザーまたはユーザーグループへの AMS ロールの付与	17
	AMS ログの収集について	18
第 3 章	Appliance Management Console の使用	19
	Appliance Management Console へのログオン	19
	[ホーム (Home)] ページの使用	21
	AMS でのパスワードの変更	23
	ダウンロードに使用する帯域幅の制限	24
	Appliance Management Console からのログアウト	24
第 4 章	[ホーム (Home)] ページからのアプライアンスの管理	26
	アプライアンスの詳細の表示	26
	アプライアンスの再ブート	28
	アプライアンスのパフォーマンスグラフの表示	28
	アプライアンスのパフォーマンスデータのエクスポート	30
	アプライアンスの容量使用率の表示	31
	Appliance Management Console への Appliance の追加	32
	Appliance Management Console からの Agent の削除	34
	アプライアンスソフトウェアのアップグレードについて	35
	複数のアプライアンスアップグレードのガイドライン	37

	アプライアンスソフトウェアのアップグレード	37
	EEB またはアドオンの管理	40
	EEB またはアドオンのインストール	41
	EEB またはアドオンのアンインストール	42
	ステージングパッケージについて	43
	パッケージのステージングに関する考慮事項	45
	インストールまたはアップグレードのためのパッケージのステージング	45
	サービスの管理について	46
	サービスを管理するための必要条件	48
	サービスの開始、停止、再起動	48
	メンテナンスリリースパッケージのインストール	49
第 5 章	アクティビティとイベントの監視	52
	アクティビティモニターについて	52
	アクティビティモニターへのアクセス	53
	イベントの監視	53
	マイアプライアンスポータルへのアクセス	55
第 6 章	リポジトリの管理	56
	リポジトリの管理について	56
	リポジトリにアップグレードパッケージまたはファイルを追加する場合のガイ ドライン	57
	リポジトリへのアクセス	58
	リポジトリへのアップグレードパッケージまたは EEB ファイルの追加	58
	アップグレードパッケージまたは EEB ファイルのリポジトリからの削除	59
第 7 章	以前のバージョンのアプライアンスに管理更新プロ グラムを適用する	60
	以前のバージョンの AMS とエージェントでサポートされるアップデートとダ ウンロード	60
	AMS アップデートの管理	61
	自動または手動のエージェントアップデートの実行	63
第 8 章	NetBackup Virtual Appliance での AMS の実行 	65
	NetBackup Virtual Appliance での AMS	65
	NetBackup を構成せずに、仮想アプライアンスでスタンドアロン AMS を構 成する	66

仮想アプライアンスでプライマリサーバーまたはメディアサーバーおよび AMS を構成する	67
Appliance Management Console のログインとユーザーパスワードの変更	68
索引	69

概要

この章では以下の項目について説明しています。

- 概要
- [Appliance Management Server 1.4.2 で導入された変更](#)
- [Appliance Management Console について](#)
- [Appliance Management Server について](#)
- [アプライアンス管理エージェントについて](#)
- [AMS とエージェントのトポロジについて](#)

概要

Veritas Appliance Management Console は、複数のアプライアンスを一括管理するインターフェースです。多くのアプライアンスを管理者が 1 人で同時に管理できます。この機能は、NetBackup Appliance 3.1 以降で利用できます。

Appliance Management Console は、Appliance Management Server (AMS) でホストされます。Appliance Management Console から、構成済みアプライアンスを追加または削除できます。

Appliance Management Console から次のタスクを実行できます。

- 選択したアプライアンスの同時アップグレード
 - Emergency Engineering Binary ファイル (パッチ) の選択したアプライアンスへのインストールまたはアンインストール
- Emergency Engineering Binary ファイルは、各リリースに組み込まれる顧客関連の修正プログラムです。

メモ: Appliance Management Console では、NetBackup Appliance と NetBackup Virtual Appliance はサポートしていますが、Flex Appliance はサポートしていません。

Appliance Management Server RPM は、次の場所にあるベリタスのサポート Web サイトのダウンロードセンターページから NetBackup Appliance パッケージとともに利用可能です。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads

『アプライアンス管理ガイド』(本書) では、一括管理インターフェースから複数のアプライアンスを管理する方法について説明しています。

Appliance Management Server 1.4.2 で導入された変更

このリリースでは、次の変更が導入されています。

NetBackup Appliance のメンテナンスリリースのサポート

NetBackup Appliance バージョンより後のバージョンの NetBackup Appliance MR (メンテナンスリリース) をインストールできるようになりました。

たとえば、メンテナンスリリースパッケージがバージョン 3.2 の場合は、NetBackup Appliance バージョン 3.1.2 にインストールできます。

インストールする前に Appliance Readiness Analyzer を手動で実行する必要があることに注意してください。

p.49 の「メンテナンスリリースパッケージのインストール」を参照してください。

Appliance Management Console について

Appliance Management Console は、1 つのペインから複数の NetBackup Appliance を一元管理できる、Web ベースのグラフィカルユーザーインターフェースです。NetBackup Appliance を全社規模で監視および管理できます。このコンソールを使用して、複数のアプライアンスで EEB (Emergency Engineering Binary) ファイルを同時にアップグレードおよびインストールすることができます。

メモ: ソフトウェアバージョン 2.7.3 と 3.0 を使用するアプライアンスでは、Appliance Management Console を使用したアップグレードもサポートされます。Appliance Management Console からバージョン 2.7.3 または 3.0 の Appliance をアップグレードするには、最初にこれらの Appliance で特定の EEB を適用する必要があります。詳しくは、この[リンク](#)を確認してください。

管理インターフェースを使用すれば、特に環境内に複数のアプライアンスがある場合に、時間と費用を節約することができます。アップグレードまたは EEB をインストールするために個々のアプライアンスにログオンする必要はありません。管理対象アプライアンスは、1 つのネットワークに存在することも、分離されたネットワークに存在することもでき、どちらも 1 つの管理ネットワークから確認できます。

3.1 以降では、2 つの Web ベースのグラフィカルユーザーインターフェースが NetBackup アプライアンスで利用できます。必要条件に基づいて、次のいずれかの方法を選択できます。

- **NetBackup Appliance Web コンソール**
個々のアプライアンスの管理および構成に関連する NetBackup Appliance Web コンソールです。
- **Appliance Management Console**
Appliance を AMS として構成すると、特定の Appliance の Appliance Management Console にアクセスできます。Appliance Management Console は、複数の NetBackup Appliance の EEB をアップグレードまたはインストールする場合に使用できる管理インターフェースです。

Appliance Management Console の機能を次に示します。

- 管理対象サーバーを [ホーム (Home)] ページに表示します。
- 同じバージョンの複数のアプライアンスをアップグレードします。
- Appliance Management Console からバージョン 2.7.3 または 3.0 のアプライアンスをアップグレードする場合は、最初にこれらのアプライアンスで特定の EEB を適用する必要があります。詳しくは、この[リンク](#)を確認してください。
- 同じバージョンの複数のアプライアンスに EEB を適用します。複数のアプライアンスには、1 度に 1 つの EEB のみが適用されます。
- 現在実行されているすべてのインストールまたはアップグレードをアクティビティモニターから確認します。[監視 (Monitor)] > [イベント (Events)] で、Appliance Management Server のイベントを確認することもできます。

メモ: インストールまたはアップグレードは、アクティビティモニターから確認できるように、Appliance Management Console から開始する必要があります。

ページの右上隅にある[?]をクリックすると、『アプライアンス管理ガイド』を参照できます。

Appliance Management Server について

次のコンポーネントは、アプライアンス管理の鍵となります。

- Appliance Management Server (AMS)

■ アプライアンス管理エージェント (エージェント)

バージョン 3.1 以降をインストールしている設定済みの **NetBackup Appliance** は、**AMS** として設定できます。**AMS** はプライマリサーバーまたはメディアサーバーに構成できます。**AMS** 構成では、データベースやリポジトリの作成などのいくつかの処理を行います。**AMS** はエージェントによって送信される運用データを取得し、それをデータベースに挿入します。**AMS** ごとのエージェントの最大数に制限はありません。

単一の管理サーバーは、1 つの環境で複数のエージェントを管理します。バージョン 3.1 以降をインストールしている設定済みの **NetBackup Appliance** は、エージェントとして設定できます。エージェントは、プライマリサーバーまたはメディアサーバーとして使用できます。すべてのエージェントは、**REST API** の呼び出しを介して、ポート 443 (**https**) で **AMS** と接続して通信します。これらのエージェントは、単一または複数のエンタープライズデータセンターに配置できます。エージェントが複数のデータセンターに配置されている場合、すべてのエージェントは同じエンタープライズネットワークインフラストラクチャに属していると思われます。つまり、何らかの全社規模のネットワークによって、すべてのエージェントが互いの **IP** アドレスに直接接続できるということです。同じシステム内の全コンポーネント間の通信は、信頼できる識別情報証明書とセキュリティトークンに基づいており、安全です。このようにセキュリティで保護された通信インフラストラクチャは、**AMS** のインストール時、また **Agent** が **Appliance Management Console** に追加されたときに配置されます。セキュリティは証明書として保持され、**Agent** が **Appliance Management Console** から削除されるとトークンが期限切れまたは無効になります。

メモ: アプライアンスは、エージェントと **AMS** の両方ではなく、そのいずれかに設定できます。

認証および認可された **AMS** 管理者のみが **AMS** コマンドを発行し、エージェントのノードを制御できます。すべてのエージェントは、定期的に状態情報を **AMS** に送信します。エージェントから **AMS** に情報を送信するフローは安全かつ連続的であり、ストレージ消費などの重要な時系列データの集合と重大なイベントをサポートします。

AMS ユーザーロールは、**AMS** がホストする **Web** アプリケーションを使用してアプライアンスを管理します。これは、**Appliance Management Console** と呼ばれます。**Appliance Management Console** では、**NetBackup Appliance** の全社規模の監視と管理が可能です。バージョンが同じアプライアンスで **EEB** をアップグレードおよび更新できます。常に専用のアプライアンスにログオンし、その他すべてのタスクに **NetBackup Appliance Web** コンソールを使用できます。

アプライアンス管理エージェントについて

AMS を構成したら、**AMS** ユーザーは **Appliance Management Console** にアプライアンスを追加する必要があります。**NetBackup Appliance** は、**Agent** として **Appliance Management Console** に登録する必要があります。**Agent** の登録処理では、**Appliance**

Management Console を使用してアクセスキーを生成し、このキーを Agent の Shell メニューに貼り付けます。

p.32 の「[Appliance Management Console への Appliance の追加](#)」を参照してください。

Agent を追加したら、AMS ユーザーは、Appliance Management Console を使用して Agent を管理できます。すべてのエージェントは、REST API の呼び出しを介して、ポート 443 (HTTPS) で AMS と接続して通信します。

アプライアンスは、エージェントまたは AMS として構成できます。次の構成変更はサポートされていません。

- エージェントを AMS に昇格する
- AMS の管理ロールをエージェントに変更する

メモ: アプライアンスを NetBackup Appliance 2.7.3 からそれ以降のバージョンにアップグレードした場合は、AMS によりアプライアンスの再登録が求められます。

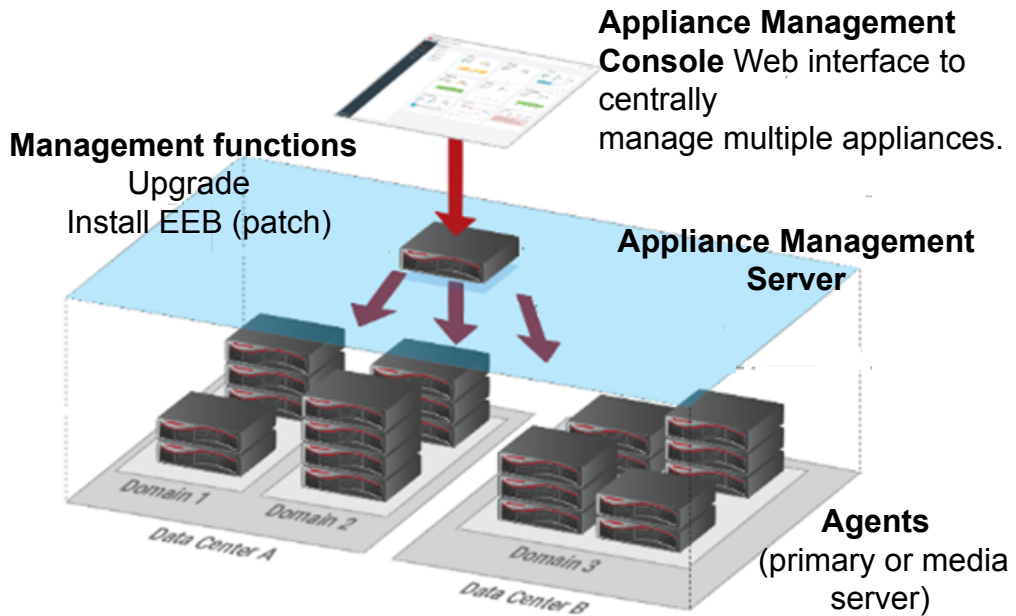
AMS とエージェントのトポロジについて

このトピックでは、アプライアンスの中央管理を有効にするトポロジを設定する方法について説明します。

トポロジは、複数のエージェントを管理する 1 つの AMS で構成されます。作業負荷とパフォーマンスに応じて、使用環境でこのようなトポロジを複数使用できます。

 [図 1-1](#) に、AMS とエージェントのトポロジを示します。

図 1-1 AMS とエージェントのトポロジ



メモ: 1 つのトポロジでサポートされる AMS は 1 つだけです。

AMS としてのアプライアンス

この章では以下の項目について説明しています。

- [AMS としてのアプライアンスの構成について](#)
- [AMS としてのアプライアンスの構成](#)
- [AMS の構成解除](#)
- [AMS ユーザーロールについて](#)
- [ユーザーまたはユーザーグループへの AMS ロールの付与](#)
- [AMS ログの収集について](#)

AMS としてのアプライアンスの構成について

3.1 以降の NetBackup Appliance は、Appliance Management Server (AMS) として設定できます。

次の手順を実行して、AMS としてアプライアンスを構成します。

表 2-1 AMS としてのアプライアンスの構成

順序	説明	トピックのリンク
1	アプライアンスの管理役割を AMS として設定します。	p.15 の「 AMS としてのアプライアンスの構成 」を参照してください。
2	ユーザーまたはユーザーグループに AMS の役割を付与します。	p.16 の「 AMS ユーザーロールについて 」を参照してください。

順序	説明	トピックのリンク
3	AMS で NetBackup Appliance Web コンソールのログインページにアクセスし、AMS ユーザークレデンシャルでログオンします。これにより、Appliance Management Console にアクセスできます。	p.19 の「 Appliance Management Console へのログオン 」を参照してください。
4	管理対象にするアプライアンスを追加します。	p.32 の「 Appliance Management Console への Appliance の追加 」を参照してください。

アプライアンスが AMS として構成されているかどうかを確認するには

- ◆ シェルメニューで次のコマンドシーケンスを実行します。

```
Appliance > Management Server Status
```

AMS としてのアプライアンスの構成

環境内の複数の NetBackup Appliance を Appliance Management Console から一元管理する場合は、Appliance の管理ロールを設定する必要があります。Appliance Management Server (AMS) として NetBackup Appliance を構成するには、アプライアンスの管理ロールを設定します。複数の NetBackup Appliance がある環境では、複数のエージェントを管理する AMS を 1 つ構成できます。

アプライアンスの管理ロールを AMS として設定する場合は、事前に次の前提条件を確認してください。

- バージョン 3.1 以降がインストールされたアプライアンスであれば、AMS として設定できる。アプライアンスを構成する必要がある。
- アプライアンスの管理ロールを AMS またはエージェントとして設定できるが、その両方としては設定できない。
- 外部証明書とサードパーティ証明書は AMS ではサポートされていません。AMS で独自の証明書をインストールした場合や、AMS のホスト名を変更した場合は、すでに登録されているすべてのエージェントを再度追加する必要があります。同様に、エージェントに独自の証明書をインストールした場合や、エージェントのホスト名を変更した場合は、AMS に再びエージェントを追加する必要がある。

AMS としてアプライアンスを構成するには

- 1 AMS として設定するアプライアンスの **NetBackup Appliance** シェルメニュー にログインします。
- 2 次のコマンドシーケンスを実行します。

```
Appliance > Management Server Configure
```

次のメッセージが表示されます。

```
[INFO] The Appliance Management Server is successfully configured.  
Use the NetBackup Appliance Shell Menu to create an appliance  
user  
(Local/LDAP/AD)with the AMS role.  
Log on to the NetBackup Appliance Web Console with this account.
```

AMS の構成解除

この手順は、AMS として構成されているアプライアンスで実行してください。

AMS としてのアプライアンスを構成解除するには

- 1 **NetBackup Appliance** シェルメニューにログインします。
- 2 次のコマンドシーケンスを実行します。

```
Appliance > Management Server Unconfigure
```

AMS ユーザーロールについて

セキュリティを強化するには、各ユーザーに異なるロールを割り当てることができます。ロールを使用すると、システムのアクセスを権限セットに制限することができます。ロールは個別ユーザーに適用できます。あるいは、複数のユーザーを含むグループに適用できます。このトピックで説明するユーザーロールは LDAP ユーザー、Active Directory (AD) ユーザー、NIS ユーザーに固有です。

ユーザーロールとそれに関連付けられる権限を次に説明します。

ユーザーロール 権限

管理者	ユーザーは次の項目にアクセスできます。 ■ NetBackup Appliance Web コンソール ■ NetBackup Appliance シェルメニュー ■ NetBackup 管理コンソール
AMS	AMS でホストされるアプライアンス管理コンソール

ユーザーロール 権限

NetBackupCLI NetBackup のコマンドライン

AMS ユーザーに関する次の注意事項を確認してください。

- AMS ユーザーは AMS のアプライアンス管理コンソールにアクセスできます。AMS ユーザーは、AMS の NetBackup Appliance シェルメニューまたは NetBackup Appliance Web コンソールにアクセスできません。
- AMS の NetBackup Appliance シェルメニューから AMS の役割をユーザーに付与できるのは管理者のみです。
- AMS の役割を付与する前に、アプライアンスで AMS を構成する必要があります。
p.14 の「[AMS としてのアプライアンスの構成について](#)」を参照してください。

ユーザーまたはユーザーグループへの AMS ロールの付与

AMS で、NetBackup Appliance シェルメニューを使用して AMS ロールをユーザーに付与できます。AMS ユーザーロールを付与するアプライアンスで、AMS を設定していることを確認します。

ユーザーまたはユーザーグループの作成について詳しくは、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。

AMS ロールをユーザーに付与するには

- 1 AMS の NetBackup Appliance シェルメニューに管理者としてログオンします。管理者のみが AMS ユーザーロールを付与できます。
- 2 [メイン (Main)] > [設定 (Settings)] > [セキュリティ (Security)] > [認可 (Authorization)] に移動します。

- 3 ユーザーまたはグループに AMS ロールを付与できます。次のいずれかのコマンドを使用します。

```
Grant AMS Users users
```

例: `Grant AMS Users garry`

ここで、**users** は、ローカルユーザーまたは構成したリモートディレクトリサービス (LDAP、AD、NIS など) でアプライアンスに追加した登録済みユーザーのカンマ区切りリストです。

```
Grant AMS Group groups
```

ここで、**groups** は、構成されたリモートディレクトリサービス (LDAP、AD、NIS など) からアプライアンスに追加された、登録済みユーザーグループのカンマ区切りリストです。

- 4 List コマンドを使用して、ユーザーまたはユーザーグループのロールを確認できます。

例:

```
nbapp.Authorization> List
```

```
+-----+-----+-----+-----+-----+
|Principal Type| Name/login |Access | Role      |Principal Source|
+-----+-----+-----+-----+-----+
|User          | garry      |Allowed| AMS       |Local           |
+-----+-----+-----+-----+-----+
|Group         | NBALocalAdmins|Allowed| Administrator|Local           |
+-----+-----+-----+-----+-----+
|Group         | AMSadmin-grp |Allowed| AMS       |Local           |
+-----+-----+-----+-----+-----+
```

AMS ログの収集について

バージョン 3.3.0.1 以降、NetBackup Appliance または NetBackup Virtual Appliance で DataCollect コマンドを実行すると、Appliance Management のログが含まれるようになります。このログは /log/appliancemgmt に AMS ログおよびエージェントログとともに保存されます。

DataCollect の使用方法について詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

Appliance Management Console の使用

この章では以下の項目について説明しています。

- [Appliance Management Console](#) へのログイン
- [\[ホーム \(Home\)\]](#)ページの使用
- [AMS](#) でのパスワードの変更
- [ダウンロード](#)に使用する帯域幅の制限
- [Appliance Management Console](#) からのログアウト

Appliance Management Console へのログイン

Appliance Management Console にアクセスするには、次の操作を実行する必要があります。

- アプライアンスの管理ロールを AMS として設定する
p.15 の「[AMS としてのアプライアンスの構成](#)」を参照してください。
- AMS のユーザーに AMS の役割を付与する
p.16 の「[AMS ユーザーロールについて](#)」を参照してください。
p.17 の「[ユーザーまたはユーザーグループへの AMS ロールの付与](#)」を参照してください。

これらの前提条件を満たしたら、サポート対象のブラウザを使用して AMS で NetBackup Appliance Web コンソールのログインページを開き、AMS ユーザーとしてログインして Appliance Management Console にアクセスします。ログインページで、Appliance Management Console や NetBackup Appliance Web コンソールにもログインすることができます。Appliance Management Console にアクセスするには、AMS のユーザークレデンシャルを入力する必要があります。ログインページで通常の admin クレデンシャル

を入力すると、特定のアプライアンスの NetBackup Appliance Web コンソールにアクセスできます。

表 3-1 に、Appliance Management Console にアクセスするための推奨ブラウザの一覧を示します。

表 3-1 Appliance Management Console の推奨ブラウザ

ブラウザ	サポートされるバージョン
Mozilla Firefox	52.0.0 以降
Google Chrome	57.0.2987 以降

ログインページから Appliance Management Console にアクセスする手順は次のとおりです。

Appliance Management Console にログインするには

メモ: Appliance Management Console にログインする前に、Appliance を AMS として設定する必要があります。また、AMS のシェルメニューから、ユーザーに AMS の役割を付与する必要があります。

- 1 アプライアンスへのネットワーク接続があるシステムで、Web ブラウザを起動します。

表 3-1 に、Appliance Management Console にアクセスするための推奨ブラウザの一覧を示します。

Web ブラウザのアドレスバーに、次のように入力します。

https://host.domain。ここで、host.domain は AMS の完全修飾ドメイン名 (FQDN) であり、IP アドレスになる場合もあります。

ホスト名は、アプライアンスに割り当てられた、ネットワーク内でデバイスを識別するためのラベルです。

- 2 AMS の役割を持つユーザーのクレデンシャルを入力します。

Appliance Management Console の [ホーム (Home)] ページにアクセスできます。

メモ: Appliance Management Console にアクセスするには、AMS のユーザークレデンシャルを入力する必要があります。ログインページで通常の admin クレデンシャルを入力すると、特定のアプライアンスの NetBackup Appliance Web コンソールにアクセスできます。

[ホーム (Home)] ページの使用

NetBackup Appliance Web コンソールページから AMS ユーザーとしてログインすると、Appliance Management Console のホームページにアクセスできます。このページは、プライマリサーバーなどのアプライアンスの役割を設定した後に表示されます。

[ホーム (Home)] ページで、管理するアプライアンス (エージェント) を追加できます。プライマリサーバーまたはメディアサーバーとして構成されている NetBackup 3.1 以降のアプライアンスのみを追加できます。

メモ: ソフトウェアバージョン 2.7.3 と 3.0 を使用するアプライアンスを追加できるため、Appliance Management Console を使用したアップグレードもサポートされます。Appliance Management Console でバージョン 2.7.3 または 3.0 の Appliance を追加またはアップグレードするには、最初にこれらのアプライアンスで特定の EEB を適用する必要があります。詳しくは、この[リンク](#)を参照してください。

表 3-2 で、[ホーム (Home)] ページに表示される各列について説明します。

表 3-2 [ホーム (Home)] ページ

列	説明
ホスト名	Appliance Management Console で管理するエージェントのホスト名 (FQDN) が表示されます。 ホスト名をクリックすると、アプライアンスの詳細とパフォーマンスメトリックが表示されます。 p.26 の「 アプライアンスの詳細の表示 」を参照してください。 p.28 の「 アプライアンスのパフォーマンスグラフの表示 」を参照してください。
製品 (Product)	アプライアンスが属しているベリタス製品カテゴリを表示します。
モデル (Model)	エージェントのハードウェアモデルが表示されます。
役割 (Role)	プライマリまたはメディアなどのエージェントの役割。
プライマリ (Primary)	エージェントに関連付けられているプライマリサーバー。エージェント自体がプライマリサーバーの場合、このフィールドは空白です。
アプライアンスのバージョン (Appliance Version)	アプライアンスソフトウェアのバージョン。

列	説明
AMS/エージェントのバージョン (AMS/Agent version)	アプライアンスが AMS とエージェントのどちらとして構成されているかに応じた、アプライアンス上の AMS またはエージェントソフトウェアのバージョン。 メモ: AMS/エージェントのバージョンを更新してから[ホーム (Home)] ページに更新された情報が表示されるまでに最大 1 時間かかることがあります。
使用済み容量の合計 (Total capacity used)	エージェントでの使用済み容量 (MSDP、AdvancedDisk、共有、構成などのすべてのパーティションを含む)。 使用済み容量は、グラフに割合で表示されます。
最後に問い合わせた時間 (Last contact time)	次のいずれかを実行した時間が表示されます。 ■ EEB のインストール ■ アップグレード ■ 特定のエージェントからのインベントリデータの受信

[追加 (Add)] をクリックして、管理するアプライアンスを追加できます。

このページでは、特定のホスト名、バージョン、またはモデルを検索することもできます。

関連する警告と情報メッセージは、[ホーム (Home)] ページの上部に通知として表示されます。セッションにサインインしている間、これらの通知は表示されたままです。別のページに切り替えたり、[ホーム (Home)] ページに戻っても表示されたままになります。たとえば、AMS に登録されている 1 つ以上のエージェントを AMS バージョンと一致するようにアップグレードする必要がある場合に通知が表示されます。サインイン中のセッションで通知が表示されないようにするには、右上隅の[X]をクリックするか、通知に示されたタスクに対処します。

メモ: AMS アプライアンスを AMS からアップグレードすることはできません。AMS として構成されているアプライアンスの NetBackup Appliance のバージョンをアップグレードするには、NetBackup Appliance シェルメニューからアップグレード操作を実行します。

p.32 の「[Appliance Management Console への Appliance の追加](#)」を参照してください。

p.34 の「[Appliance Management Console からの Agent の削除](#)」を参照してください。

AMS でのパスワードの変更

ログインしているユーザーは、[パスワードの変更 (Change password)] ページでパスワードを変更できます。新しいパスワードは、現在適用されているパスワードポリシーの必要条件を満たす必要があります。

メモ: このページで変更できるのは、NetBackup Appliance のパスワードのみです。NetBackup Virtual Appliance のパスワードを変更するには、[設定 (Settings)] の [セキュリティ (Security)] で NetBackup Virtual Appliance のシェルメニューコマンドを使用します。

デフォルトでは、NetBackup のすべてのアプライアンスで次のパスワードルールが適用されます。

- 8 文字以上
- 少なくとも 1 つの小文字
- 少なくとも 1 つの数字 (0 から 9)

メモ: 大文字と特殊文字を含めることはできますが、必須ではありません。

- 辞書にある言葉は弱いパスワードと見なされて受け入れられません。
- 過去 7 回分のパスワードは再利用できません。以前のパスワードに類似する新しいパスワードも使えません。

現在のユーザーのパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

現在のユーザーのパスワードを変更するには

- 1 [ホーム (Home)] ページの左側の列で、[設定 (Settings)] をクリックします。
- 2 [設定 (Settings)] ページで、[パスワードの変更 (Change password)] をクリックします。
- 3 [パスワードの変更 (Change password)] ページで、次の情報を入力します。
 - 古いパスワード (Old password): 現在のパスワードを入力します。
 - 新しいパスワード (New password): 新しいパスワードを入力します。

- 新しいパスワードの確認 (Confirm new password): 確認のため、新しいパスワードをもう一度入力します。
- 4 [保存 (Save)]をクリックします。
- 新しいパスワードが受け入れられると、[パスワードが正常に変更されました。(Password changed successfully.)]というメッセージが表示されます。
- 新しいパスワードが受け入れられない場合は、[パスワードの変更に失敗しました。(Password change failed.)]というメッセージが表示されます。この手順を繰り返して、有効なパスワードを入力します。

ダウンロードに使用する帯域幅の制限

アプライアンスソフトウェアのアップグレードや EEB のインストールを行う際には、まずアップグレードパッケージまたは EEB パッケージを AMS からエージェントにダウンロードします。ネットワークスロットルを使用すると、これらのダウンロードに使用する帯域幅を制限できます。

ダウンロードがタイムアウトした場合は、アプライアンスソフトウェアのアップグレードまたは EEB のインストールを再実行して、ダウンロードを再開できます。

ダウンロードに使用するネットワーク帯域幅を制限するには

- 1 Appliance Management Console にログオンします。
- 2 [設定 (Settings)] をクリックし、[ネットワークスロットル (Network Throttling)] をクリックします。
- 3 [ネットワークスロットル (Network Throttling)] ページで、[帯域幅の制限 (Limit Bandwidth)] を選択します。設定する制限の値を入力し、ドロップダウンから帯域幅を選択したら、[保存 (Save)] をクリックします。

メモ: アップグレードパッケージは (GB 単位) サイズが大きいため、たとえば 1 MBps でダウンロードすると、1 時間以上かかる場合があります。そのため、Veritas ではスロットルを 2 MBps 以上に設定することを推奨しています。

Appliance Management Console からのログアウト

Appliance Management Console を終了するにはログアウトする必要があります。ログアウトするには次の手順を実行します。

Appliance Management Console からログアウトするには

- 1 Appliance Management Console の右上隅にあるアイコンをクリックします。アイコンは、ユーザー名の最初の文字です。
- 2 [ログアウト (Logout)]をクリックします。

メモ: 60 分間何の操作もしないと、ユーザーは自動的にログアウトされます。

[ホーム (Home)] ページからのアプライアンスの管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [アプライアンスの詳細の表示](#)
- [アプライアンスの再ブート](#)
- [アプライアンスのパフォーマンスグラフの表示](#)
- [アプライアンスのパフォーマンスデータのエクスポート](#)
- [アプライアンスの容量使用率の表示](#)
- [Appliance Management Console への Appliance の追加](#)
- [Appliance Management Console からの Agent の削除](#)
- [アプライアンスソフトウェアのアップグレードについて](#)
- [EEB またはアドオンの管理](#)
- [ステージングパッケージについて](#)
- [サービスの管理について](#)
- [メンテナンスリリースパッケージのインストール](#)

アプライアンスの詳細の表示

[概要 (Overview)] タブには、ホスト名、ストレージの構成、モデルなどのアプライアンスの詳細が表示されます。また、AMS またはエージェントのバージョンとアプライアンスソフトウェアのバージョンも、シリアル番号、役割、プライマリサーバーなどのアプリケーションの情報とともに表示されます。ハードウェアアプライアンスの場合は、このアプライアンス

に接続されているストレージシェルフまたは拡張シェルフの数などの詳細が表示されません。

[ラック番号 (Rack number)] フィールドを使用して、アプライアンスの物理的な場所などの詳細を入力できます。[注意 (Notes)] フィールドにアプライアンスに関するその他の詳細を追加することもできます。

次は[概要 (Overview)] タブのサンプルビューです。

メモ: 現在、5250 Appliance に接続されているストレージシェルフについての情報を表示することはできません。

Veritas™ Appliance Management Console
Version 1.4.2

Home /

Overview Performance Capacity

Hostname Model 5230 AMS / Agent 1.4.2 Version 3.2

Hardware configuration

Appliance

80.73 TB
Total capacity of storage shelves
*Does not include storage on the appliance

Storage shelves

Storage Shelf 1
Capacity: 39.06 TB
Serial number:

Storage Shelf 2
Capacity: 41.66 TB
Serial number:

Appliance details

Serial number:
Role: Primary
Primary server: -
Maintenance Release: -
Rack number:
Notes:

Web console Reboot appliance

[Web コンソール (Web console)] をクリックして、アプライアンスの NetBackup Appliance Web コンソールのログインページにアクセスします。[Web コンソール (Web console)] ボタンはエージェントに対してのみ表示されます。

メモ: エージェントがアプライアンスソフトウェアのバージョン 3.1.1 上にあり、モデルが 52xx の場合、[概要 (Overview)] タブに表示されるストレージシェルフのサイズ (容量) は正確ではありません。ストレージシェルフのサイズに関する正確な情報については、シェルフメニューの **Manage > Storage > Show** コマンドを使用します。この問題を解決するには、エージェントをアプライアンスソフトウェアバージョン 3.1.2 以降にアップグレードします。

アプライアンスの再ブート

管理目的またはメンテナンス目的で、アプライアンスの再ブートが断続的に必要になることがあります。Appliance Management Console では、[概要 (Overview)] タブから AMS またはエージェントアプライアンスを再ブートできます。

アプライアンスを再ブートするには

- 1 適切な AMS ユーザーのクレデンシャルを使用して、Appliance Management Console にサインインします。
- 2 [ホーム (Home)] ページで、アプライアンスのホスト名をクリックします。
- 3 [概要 (Overview)] タブで、[アプライアンスを再ブート (Reboot appliance)] をクリックします。

アプライアンスのパフォーマンスグラフの表示

各アプライアンス (AMS またはエージェント) のパフォーマンスを表示できます。さらに、各アプライアンスのパフォーマンスメトリックを、同じ AMS を使用する他のアプライアンスと最大 4 台まで比較できます。これらのメトリックを CSV ファイルとしてエクスポートすることもできます。

[更新 (Refresh)] をクリックしてこのページを更新し、アップデートされたデータを表示できます。デフォルトの期間は、過去 24 時間です。

パフォーマンスメトリックの表示では、次のパラメータを選択できます。

表 4-1 パフォーマンスパラメータ

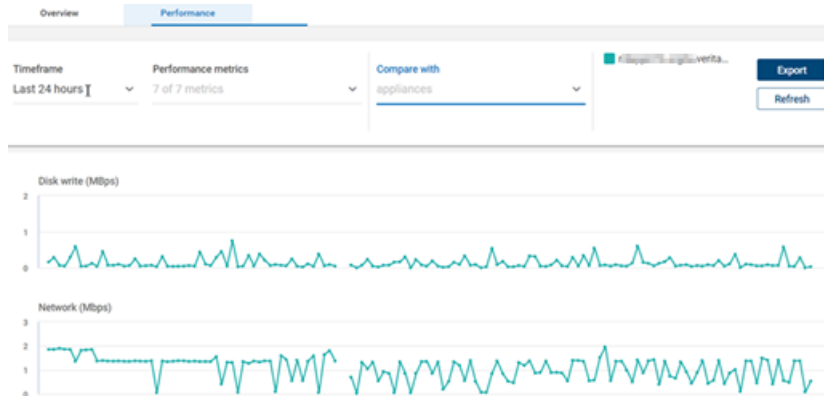
期間 (Timeframe)	過去 1 時間、6 時間、12 時間など、いくつかのオプションから選択できます。最大で過去 30 日間のデータを表示できます。
パフォーマンスメトリック (Performance metrics)	表示または比較するメトリックを確認できます。
アプライアンスと比較 (Compare with appliances)	同じ AMS を使用する他のアプライアンスと最大 4 台まで比較できます。アプライアンスを検索したり、リストからアプライアンスを選択したりできます。
複数のアプライアンスの色の凡例 (Color legend for multiple appliances)	グラフで簡単にアプライアンスを識別できるように、異なるアプライアンスの色と凡例が右側に表示されます。

パフォーマンスメトリックは、CPU、メモリなどのシステムメトリックと、NetBackup ジョブ数、NetBackup 全体の重複排除率などのアプリケーション変数を組み合わせたものです。以下のメトリックが表示されます。

表 4-2 パフォーマンスメトリック

パフォーマンスメトリック	説明
CPU (%)	選択した期間の特定のアプライアンスについて、CPU 使用率を表示します。パフォーマンスを評価するため、その他の 4 台のアプライアンスと CPU メモリ使用率を比較できます。
メモリ (%) (Memory (%))	選択した期間のアプライアンスについて、メモリ使用率を表示します。パフォーマンスを評価するため、その他の 4 台のアプライアンスと CPU メモリ使用率を比較できます。
ディスクの読み込み (MBps) (Disk read (MBps))	選択した期間のアプライアンスで 1 秒ごとに読み取られたデータの量を表示します。
ディスクの書き込み (MBps) (Disk write (MBps))	選択した期間のアプライアンスで 1 秒ごとに書き込まれたデータの量を表示します。
ネットワーク (Mbps) (Network (Mbps))	選択した期間の特定のアプライアンスについて、ネットワーク使用率を表示します。
ストレージ使用率 (%) (Storage utilization (%))	選択した期間の特定のアプライアンスについて、ストレージ使用率を表示します。
NetBackup ジョブ (#) (NetBackup jobs (#))	選択した期間のアクティブな NetBackup ジョブを表示します。これには、バックアップ、リストア、複製、レプリケーションなどのすべての NetBackup ジョブが含まれます。
NetBackup 全体の重複排除率 (%) (Overall NetBackup deduplication ratio (%))	選択したアプライアンスで実行されている重複排除の比率を表示します。このメトリックは、完了済みのバックアップジョブに適用されます。

次の図に、パフォーマンスグラフの表示例を示します。異なる期間のディスクの書き込みとネットワークのメトリックを示しています。



グラフのさまざまな時点にカーソルを合わせて、特定の時間のパフォーマンス統計情報をツールチップで表示できます。

AMS またはエージェントをバージョン 1.2 に更新すると、パフォーマンスデータが 10 分ごとに収集されます。通常、データポイントは 10 分ごとにパフォーマンスグラフに表示されます。ただし、AMS またはエージェントをバージョン 1.2 に更新すると、更新前に収集されたパフォーマンスデータは 1 時間間隔で表示されます。

アプライアンスのパフォーマンスデータのエクスポート

選択した期間およびパフォーマンスメトリックについて、アプライアンスのパフォーマンスデータをエクスポートしてパラメータと比較できます。このデータは、CSV ファイルとしてエクスポートされます。

アプライアンスのパフォーマンスを他のアプライアンスと比較する場合、複数のアプライアンスのデータが zip ファイルとしてエクスポートされます。次のサンプルメッセージが表示されます。

```
5 台のアプライアンスについて選択したデータのエクスポート先: <appliance
name>_2018-11-20T21:53:30-07:00.zip (The selected data for five
appliances is exported here: <appliance
name>_2018-11-20T21:53:30-07:00.zip)
```

アプライアンスのパフォーマンスデータをエクスポートするには

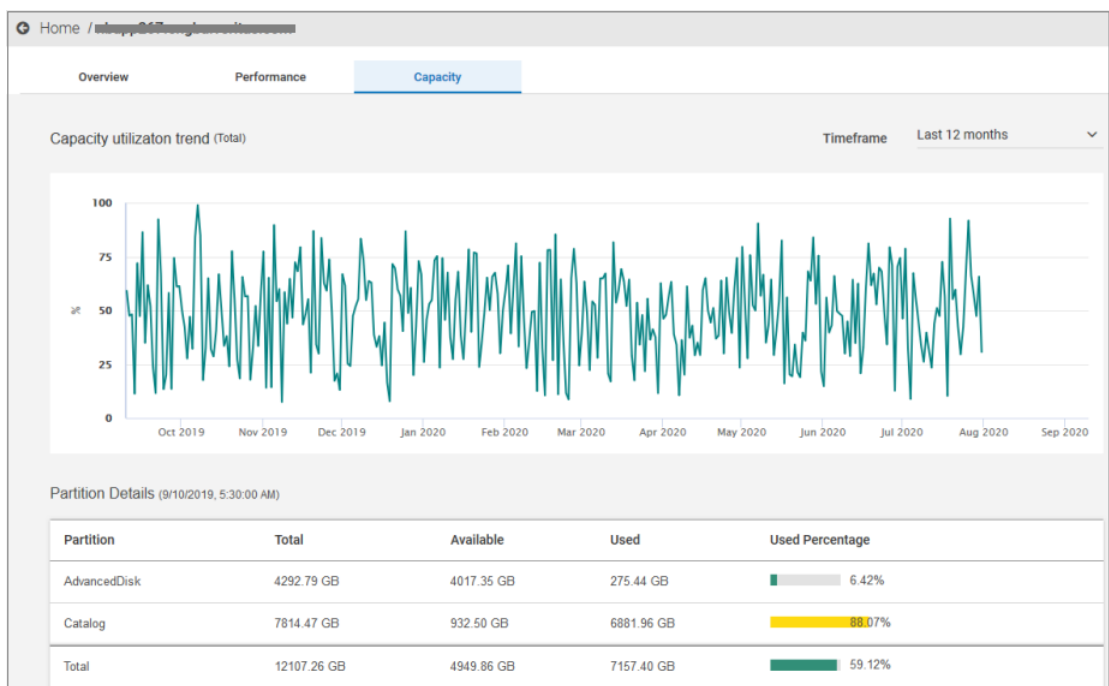
- 1 Appliance Management Console にログインします。
- 2 [ホーム (Home)] ページで、関心のあるアプライアンスのホスト名をクリックします。
- 3 [パフォーマンス (Performance)] タブをクリックします。

- 4 期間とパフォーマンスメトリックを選択し、アプライアンスのパラメータと比較します。アプライアンスのパラメータとの比較では、選択したアプライアンスのデータを、同じ AMS を使用する他のアプライアンスと最大 4 台まで比較できます。アプライアンスを検索したり、リストからアプライアンスを選択したりできます。グラフで簡単にアプライアンスを識別できるように、異なるアプライアンスの色と凡例が右側に表示されます。
- 5 現在表示されているデータをエクスポートするには、[エクスポート (Export)] をクリックします。単一のアプライアンスの場合は CSV、複数のアプライアンスの場合は zip ファイルとしてデータがエクスポートされます。zip ファイルには、複数の CSV ファイルが含まれています。

アプライアンスの容量使用率の表示

[容量 (Capacity)] タブには、アプライアンスのパーティションの詳細と、指定可能な期間における容量使用率の傾向が表示されます。データは 24 時間ごとに自動的に更新されます。

メモ: [容量 (Capacity)] タブを使用できるのは物理アプライアンスについてのみです。仮想アプライアンスには使用できません。



デフォルトでは、前の週の容量使用率の傾向が表示されます。さまざまな期間の傾向を最大 1 年まで表示できます。

[容量使用率の傾向 (Capacity Utilization Trend)] グラフは即座に反応します。水平軸は、[期間 (Timeframe)] ドロップダウンで選択した期間内の日数に対応します。グラフ内の任意の場所をクリックすると、[パーティションの詳細 (Partition Details)] テーブルに、その日付に対応する詳細が表示されます。パーティションの詳細には、タイプ、合計サイズ、利用可能な領域、使用済み領域、使用されている容量の割合などが含まれます。

アプライアンスの容量使用率を表示するには

- 1 適切な AMS ユーザーのクレデンシャルを使用して、Appliance Management Console にサインインします。
- 2 [ホーム (Home)] ページで、アプライアンスのホスト名をクリックします。
- 3 [容量 (Capacity)] タブをクリックします。
- 4 [期間 (Timeframe)] ドロップダウンを使用して、データを表示する期間を変更します。
- 5 [容量使用率の傾向 (Capacity Utilization Trend)] グラフにカーソルを置くと、データが利用可能な日付が表示されます。
- 6 グラフ内の任意の場所をクリックすると、その日付に対応するパーティションの詳細が表示されます。

Appliance Management Console への Appliance の追加

AMS によって管理される複数のアプライアンスを追加することができます。Appliance Management Console で、これらのアプライアンスを追加することができます。プライマリサーバーまたはメディアサーバーとして構成されている 3.1 以降のアプライアンスのみを追加できます。

アプライアンスを追加するには、エージェントと管理サーバーの間で情報を交換する前に、それらの間で相互認証を実行する必要があります。二者間の認証プロセスを保護するには、アクセスキーを使用して各エージェントを AMS に登録する必要があります。Appliance Management Console の [Appliance の追加 (Add Appliance)] ページでアクセスキーをコピーして、各 Agent の Shell メニューに貼り付ける必要があります。これにより、AMS とエージェント間の通信が保護されます。

アクセスキーについて、次の点を確認します。

- アクセスキーの長さは、32 文字です。
- 複数のエージェントに同じアクセスキーを使用できます。
- アクセスキーは [再生成 (Regenerate)] をクリックしない限り、期限切れになりません。

- 必要に応じてアクセスキーおよびコマンドを常に再生成できます。アクセスキーを再生成すると、以前のアクセスキーとコマンドは有効でなくなります。

Appliance Management Console に Appliance を追加する前に、次の検討事項を確認します。

- 1 台の AMS にのみアプライアンスを追加する必要があります。2 台以上の別々の管理サーバーに対するアプライアンスの追加は、サポートされていません。
- AMS とエージェントアプライアンスのシステム時刻は同期されているか、差分が 30 分以内である必要があります。
- Appliance Management Console でバージョン 2.7.3 または 3.0 の Appliance を追加またはアップグレードするには、最初にこれらのアプライアンスで特定の EEB を適用する必要があります。詳しくは、この[リンク](#)を確認してください。
- アプライアンスをすでに AMS で管理している場合に、同じ AMS に再び同じアプライアンスを追加しても、エラーメッセージは表示されません。AMS とエージェントは、正常に動作し続けます。
- AMS でエージェントを管理している場合に、特定のエージェントを出荷時の設定にリセットすることを検討します。この場合、エージェントは引き続き AMS の[ホーム (Home)]ページに表示されますが、そのエージェントで実行された一部の操作は失敗します。AMS にエージェントが追加されないこと以外、AMS には何も表示されません。この問題を解決するには、Appliance Management Console から Agent を削除して、特定の AMS に Agent を再度追加します。
- アプライアンスをエージェントとして構成すると、アプライアンスの管理ロールを AMS に変更することはできません。

エージェントを追加するには

- 1 AMS で NetBackup Appliance Web コンソールのログインページを開きます。AMS 役割を持つユーザーとしてログオンし、Appliance Management Console にアクセスします。
p.19 の「[Appliance Management Console へのログオン](#)」を参照してください。
- 2 [ホーム (Home)]ページで、[追加 (Add)]をクリックします。
- 3 [アプライアンスの追加 (Add Appliance)]ページには、コマンド全体またはアクセスキーのみをコピーするオプションがあります。次のいずれかを実行します。
 - [コマンドのコピー (Copy Command)]をクリックして、コマンド全体をコピーします。
または
 - [アクセスキーのコピー (Copy Access Key)]をクリックして、アクセスキーのみをコピーします。このオプションを使用する場合は、手順 4 でエージェントのシェルメニューにコマンドを入力する必要があります。

新しいアクセスキーを生成する場合は、[再生成 (Regenerate)]をクリックできます。アクセスキーを再生成すると、以前のアクセスキーとコマンドは有効でなくなります。

- 4 エージェントアプライアンスで NetBackup Appliance シェルメニューにログオンします。アクセスキーとコマンド全体のどちらをコピーしたのかに応じて、次のいずれかの操作を行います。

- [コマンドのコピー (Copy Command)]をクリックした場合は、[アプライアンス (Appliance)]メニューを参照し、右クリックしてコマンドを貼り付けます。手順 5 に進みます。
- [アクセスキーのコピー (Copy Access Key)]をクリックした場合は、[アプライアンス (Appliance)]メニューを参照します。

次のコマンドを入力してアプライアンスをエージェントとして構成します。

```
Management Agent Register <server><access key>
```

ここで、<server> は AMS のホスト名または IP アドレスです。シェルメニューにアクセスキーを貼り付けます。

- 5 エージェントのシェルメニューに次の情報が表示されます。

```
[INFO] Preparing to set this appliance as an agent...
[INFO] Establishing a secure connection with the AMS...
[INFO] This appliance is now set as an agent and registered
to the AMS <hostname>.
```

- 6 Appliance Management Console に移動し、ブラウザを更新します。エージェントは、[ホーム (Home)] ページのアプライアンスのリストに存在するはずですが。

Appliance Management Console からの Agent の削除

Appliance Management Console から 1 つ以上の Agent を削除するには、次の手順を使用します。

- 1 つ以上のエージェントを削除するには

- 1 [ホーム (Home)] ページで、削除するエージェントを選択します。
- 2 [削除 (Remove)] をクリックします。

- 3 以下のダイアログボックスが表示されます。

選択したアプライアンスを削除するには、[削除 (Remove)]をクリックします。

アプライアンスが削除され、Appliance Management Console では管理されなくなります。
- 4 アプライアンスを Appliance Management Console から削除した後、そのアプライアンスを AMS から登録解除する必要があります。

アプライアンスを登録解除するには、アプライアンスで NetBackup Appliance シェルメニューから Manage Agent Unregister コマンドを実行します。

アプライアンスソフトウェアのアップグレードについて

[ソフトウェアのアップグレード (Upgrade software)] ページでは、同時に複数のアプライアンスでのソフトウェアのアップグレードを管理および配備できます。

メモ: Appliance Management Console では、高可用性 (HA) 設定のアプライアンス (ノード) のアップグレードはサポートされません。これらのアプライアンスをアップグレードするには、NetBackup Appliance シェルメニューを使用します。

メモ: アプライアンスを NetBackup Appliance 2.7.3 からそれ以降のバージョンにアップグレードした場合は、AMS によりアプライアンスの再登録が求められます。

ページの上部に、必要な各タスクの説明が表示されます。タスクが完了し、次のいずれかを続行すると、ページが更新されて、詳細と次の手順の新しい列見出しが表示されます。各タスクの詳細列見出しを次に示します。

1. アプライアンス選択の確認 (Confirm appliance selection)
 - 選択したアプライアンス (数) (Selected appliances (n)). 各アプライアンスのホスト名と選択したアプライアンスの合計数
 - 役割 (Role). 選択したアプライアンスに設定されている役割
 - プライマリ (Primary). 選択したアプライアンスに関連付けられたプライマリサーバーの名前。
 - バージョン (Version). 選択したアプライアンスの現在のソフトウェアバージョン
2. アップグレードパッケージの選択 (Select upgrade package)
 - 選択可能なパッケージ (Applicable packages). リポジトリに存在する互換性のある各アップグレードパッケージの完全名
 - タイプ (Type). パッケージの種類 (アップグレード)

- バージョン (Version)。リストされた各アップグレードパッケージのソフトウェアバージョン

メモ: アプライアンスを NetBackup 3.2 以降にアップグレードするには、**Appliance Upgrade Readiness Analyzer** パッケージを更新パッケージとともに **AMS** リポジトリに追加する必要があります。アプライアンスのアップグレードを開始するときに **Analyzer** パッケージが保存されていない場合、**AMS** にエラーメッセージが表示されます。

3. 準備の確認 (Check readiness)

- 選択したアプライアンス (数) (Selected appliances (n))。各アプライアンスのホスト名と選択したアプライアンスの合計数
- バージョン (Version)。選択したアプライアンスの現在のソフトウェアバージョン
- 選択したパッケージ (Selected package)。アプライアンスの選択済みアップグレードパッケージの名前
- 状態 (Status)。準備の確認の進捗状況と完了後の結果。
- 追加要件 (Additional requirements)。アップグレードの前に満たす必要がある特定のアプライアンスの要件。[次へ (Next)]をクリックすると、詳細が表示されます。

4. 追加要件 (Additional requirements)

- 追加要件のあるアプライアンス (数) (Appliances with additional requirements (n))。影響を受けるアプライアンスのホスト名と影響を受けるアプライアンスの合計数
- プライマリ (Primary)。選択したアプライアンスに関連付けられたプライマリサーバーの名前。
- 要件 (確認) (Requirements (confirmation))。アップグレードの前に実行する必要があるタスクの説明
- 要件 (入力) (Requirements (input))。必要な情報を入力するデータ入力フィールド

5. アップグレードの開始 (Start upgrades)

- 選択したアプライアンス (数) (Selected appliances (n))。各アプライアンスのホスト名とリストされたアプライアンスの合計数
- バージョン (Version)。アプライアンスの現在のソフトウェアバージョン
- 選択したパッケージ (Selected package)。アプライアンスの選択済みアップグレードパッケージの名前

複数のアプライアンスアップグレードのガイドライン

複数のアプライアンスアップグレードを計画する場合は、次のガイドラインを使用します。

- アップグレードプロセスを開始する前に、適切なアップグレードパッケージをダウンロードしてリポジトリに追加する
- アップグレードするアプライアンスを選択するときに、同じソフトウェアバージョンを使用しているアプライアンスのみを選択する
- アップグレードパッケージを 1 つのみ選択して、選択したすべてのアプライアンスに配備する(異なるバージョンのアップグレードパッケージの同時アップグレードは、サポートされません)
- ソフトウェアバージョン 2.7.3 と 3.0 を使用するアプライアンスでは、Appliance Management Console を使用したアップグレードもサポートされます。Appliance Management Console からバージョン 2.7.3 または 3.0 の Appliance をアップグレードするには、最初にこれらの Appliance で特定の EEB を適用する必要があります。詳しくは、この[リンク](#)を確認してください。
- ソフトウェアバージョン 2.7.3 から 3.2、および 3.0 から 3.2 にアップグレードする場合は、アップグレード後にエージェントを再登録する必要があります。

アプライアンスソフトウェアのアップグレード

アップグレードを開始する前に、以下の操作を完了していることを確認してください。

- 『Veritas NetBackup Appliance アップグレードガイド』の説明に従って、アップグレード前に必要な操作を完了している
- 適切なアップグレードパッケージをリポジトリに追加している
p.56 の「[リポジトリの管理について](#)」を参照してください。

次の手順を実行して、アプライアンスソフトウェアをアップグレードします。

アプライアンスソフトウェアをアップグレードするには

- 1 [ホーム (Home)] ページで、アップグレードするアプライアンスを選択します。選択したすべてのアプライアンスで、同じソフトウェアバージョンを使用している必要があります。アプライアンスの選択が完了したら、[管理 (Manage)]、[ソフトウェアのアップグレード (Upgrade software)] の順に選択します。
- 2 [ソフトウェアのアップグレード (Upgrade software)] ページ (手順 1: アプライアンス選択の確認) で、[ホーム (Home)] ページで選択したアプライアンスの情報を確認します。一覧が正しい場合は、[次へ (Next)] をクリックします。

変更する場合は、[ホーム (Home)] ページに戻って変更します。このページに戻って選択内容を確認し、[次へ (Next)] をクリックします。

- 3 更新されたページ (手順 2: アップグレードパッケージの選択) の[選択可能なパッケージ (Applicable packages)]列で、適切なアップグレードパッケージを選択して[次へ (Next)]をクリックします。

メモ: パッケージは 1 つしか選択できません。

- 4 更新されたページ (手順 3: 準備の確認) で、[準備の確認 (Check readiness)]をクリックしてプレフライトアップグレードチェックを開始します。

メモ: [戻る (Back)]や[次へ (Next)]をクリックしないでください。また、このタスク中にページを更新しないでください。

[状態 (Status)]列で、各アプライアンスのプレフライトチェックの進捗状況と結果を確認します。各アプライアンスの状態の詳細を表示するには、アプライアンス名の隣にある下矢印をクリックしてその行を展開します。

プレフライトチェックが完了すると、この列に各アプライアンスの結果が表示されます。他の処理が必要な場合は、[追加要件 (Additional requirements)]列に示されることもあります。次のような結果になります。

- 成功 (Successful)
アプライアンスの準備の確認が正常に完了したため、アップグレードが可能です。
- 成功 (Successful)、詳しくは[次へ]をクリックしてください (Click Next for details)
アプライアンスの準備の確認が正常に完了しましたが、アップグレードの前に他のタスクを実行する必要があります。
- 失敗 (Failed)
アプライアンスの準備の確認に失敗したため、アップグレードできません。
[次へ (Next)]をクリックします。

- 5 更新されたページ (手順 4: 追加要件) で、追加要件の情報を確認します。

- 証明書またはトークン、あるいはその両方が必要なアプライアンスの場合は、このページに示される、必要なアイテムの表の上部に取得手順が表示されます。手順は次のとおりです。

プライマリサーバーの **NetBackup** コマンドラインにログインして、次の手順を実行してください。

- 1 - 次のコマンドを実行して証明書を表示します: `nbcertcmd -listCACertDetails` (To view the certificate, run the following command: `nbcertcmd -listCACertDetails`)

- 2-SHA1 指紋が両方のインターフェースで一致することを確認します。(Verify that the SHA1 fingerprints match on both interfaces.)
- 3 - 次のコマンドを実行してトークンを生成します: nbcertcmd (To generate a token, run the following command: nbcertcmd.)
- 4 - NetBackup コマンドラインからトークンをコピーして下に貼り付けます。(Copy the token from the NetBackup command line and paste it below.)
トークンを必要とする各アプライアンスに有効なトークンを入力します。

メモ: 有効なトークンは、プライマリサーバーからのみ取得でき、変更できません。任意のアプライアンスに無効なトークンが入力された場合、エラーが表示され、[信頼して続行する (Trust and continue)]をクリックできなくなります。

- アプライアンスのプライマリサーバーのソフトウェアバージョンを 3.1.1 以前からアップグレードする場合は、Veritas Smart Meter 機能のカスタム登録キーを取得する必要があります。キーを取得するには、以下のように画面上の指示に従います。
 - [Veritas Smart Meter](#)サイトに VEMS クレデンシャルを使用してログインし、[登録キー (Registration Keys)]ページに移動してカスタム登録キーファイルをダウンロードします。
 - ダウンロードしたファイルをテキストエディタで開き、Smart Meter カスタム登録キーの[要件 (入力) (Requirements (input))]列に内容全体をコピーして貼り付けます。

このページに情報を入力したら、[信頼して続行する (Trust and continue)]をクリックします。

- 6 更新されたページ (手順 5: アップグレードの開始) で、[アップグレードの開始 (Start upgrades)] をクリックします。

アクティビティモニターが表示され、選択したアプライアンスすべてのアップグレードの進捗状況を確認できます。手順ごとの進捗状況を表示するには、次のようにアップグレード中にアプライアンスの行を展開します。

```
Step 1 of 8: hh:mm:ss, Performing the preflight check---
Step 2 of 8: hh:mm:ss, Performing the pre-upgrade self-test---
Step 3 of 8: hh:mm:ss, Creating the pre-upgrade checkpoint---
Step 4 of 8: hh:mm:ss, Performing the pre-upgrade tasks---
Step 5 of 8: hh:mm:ss, Upgrading the appliance software---
Step 6 of 8: hh:mm:ss, Upgrading NetBackup---
Step 7 of 8: hh:mm:ss, Performing the post-upgrade tasks---
Step 8 of 8: hh:mm:ss, Performing the post-upgrade self-test---
```

- 7 アプライアンスの状態が[一時停止 (Paused)]と表示される場合、そのアプライアンスの行を展開すると、続行方法に関する詳細全体が表示されます。IPMI コンソールにログインし、次のオプションのいずれかを選択するためのメッセージが表示されます。

- A キーを押してセルフテストを再試行します。
- R キーを押してアプライアンスを以前のソフトウェアバージョンにロールバックします。
A キーを押し、セルフテストが再度失敗した場合、R キーを押して以前のバージョンにロールバックするか、テクニカルサポートにお問い合わせください。

メモ: IPMI コンソールにログインしてこれらを選択しないと、ロールバックは 1 時間後に自動的に発生します。

EEB またはアドオンの管理

NetBackup の各リリースには、NetBackup の旧バージョンに関わる複数の既知の問題に対する修正が組み込まれます。各リリースに組み込まれた顧客関連の修正の一部は、Emergency Engineering Binaries (EEB) としても使用できるようになりました。

インストールとアンインストールのワークフローは次のとおりです。

- 1 アプライアンス選択の確認 > 2 EEB の選択 > 3 確認および確定 > 4 インストール p.41 の「[EEB またはアドオンのインストール](#)」を参照してください。
- 1 アプライアンス選択の確認 > 2 EEB を入力してアンインストール > 3 確認してアンインストール

p.42 の「[EEB またはアドオンのアンインストール](#)」を参照してください。

ページの上部に、必要な各タスクの説明が表示されます。タスクが完了すると、ページが更新されて次に実行する手順の詳細が表示されます。

EEB またはアドオンのインストール

[EEB (パッチ) のインストール (Install EEB (patch))] ページでは、複数のアプライアンスの EEB ソフトウェアを管理および配備できます。

メモ: 他の EEB が同時にインストールされていないことを確認します。

EEB (パッチ) をインストールするには

- 1 [ホーム (Home)] ページで、EEB のインストール先アプライアンスを選択します。選択したすべてのアプライアンスで、同じソフトウェアバージョンにする必要があります。アプライアンスの選択が完了したら、[管理 (Manage)]、[EEB/アドオンのインストール (Install EEB/Add-on)] の順にクリックします。
- 2 [EEB (パッチ) のインストール (Install EEB (patch))] ページ (手順 1: アプライアンス選択の確認) で、[ホーム (Home)] ページで選択したアプライアンスの情報を確認します。一覧が正しい場合は、[次へ (Next)] をクリックします。
 - [選択したアプライアンス (数) (Selected appliances (n))] には、各アプライアンスのホスト名とリストされたアプライアンスの合計数が表示されます。
このアプライアンスにすでにインストールされている EEB のリストを表示するには、左側のドロップダウン矢印をクリックします。
 - [役割 (Role)] には、各アプライアンスに設定されている役割が表示されます。
 - [プライマリ (Primary)] には、一覧表示されたアプライアンスメディアサーバーに関連付けられたプライマリサーバーが表示されます。
 - [バージョン (Version)] には、アプライアンスの現在のソフトウェアバージョンが表示されます。変更する場合は、[ホーム (Home)] ページに戻って変更します。このページに戻って選択内容を確認し、[次へ (Next)] をクリックします。
- 3 [EEB の選択 (Select EEB)] ページの [選択可能なパッケージ (Applicable packages)] 列で、適切な EEB パッケージを選択して [次へ (Next)] をクリックします。

メモ: パッケージは 1 つしか選択できません。

- [選択可能なパッケージ (Applicable packages)] には、AMS リポジトリに存在する互換性のある各 EEB の完全名が表示されます。

- [タイプ (Type)]には、パッケージの種類 (EEB) が表示されます。
 - [バージョン (Version)]には、リストされた各 EEB のソフトウェアバージョンが表示されます。
- 4 [確認および確定 (Review and confirm)]ページで、Readme ファイルの情報を確認して確定します。次に[次へ (Next)]をクリックします。
- 5 [EEB インストールの開始 (Start EEB install)]ページで、[インストール (Install)]をクリックしてインストールを開始します。
- [選択したアプライアンス (数) (Selected appliances (n)))]には、各アプライアンスのホスト名とリストされたアプライアンスの合計数が表示されます。
 - [バージョン (Version)]には、リストされた EEB のソフトウェアバージョンが表示されます。
 - [選択したパッケージ (Selected package)]には、アプライアンスの選択済み EEB の名前が表示されます。
- 6 アクティビティモニターの[状態 (State)]列で、次のように表示される各アプライアンスの EEB のインストールの進捗状況と結果を確認します。

Activity Monitor

Hostname	Task	State	Detail	Time started
▼  veritas.com	Upgrade	✓ Successful	---	Sep 12, 2017 03:05:30
▼  veritas.com	Upgrade	✓ Successful	---	Sep 12, 2017 03:05:30

- キューに投入されています (In queue)
EEB のインストールが予定されています。
- 処理中 (In progress)
EEB のインストールが開始されました。
- 成功 (Successful)
EEB のインストールが完了しました。
- 失敗 (Failed)
EEB のインストールが失敗しました。

EEB またはアドオンのアンインストール

[EEB (パッチ) のアンインストール (Uninstall EEB (patch)))]ページでは、複数のアプライアンスの EEB ソフトウェアをアンインストールできます。

EEB (パッチ) をアンインストールするには

- 1 [ホーム (Home)] ページで、EEB をアンインストールするアプライアンスを選択します。選択したすべてのアプライアンスで、ソフトウェアバージョンが同じである必要があります。アプライアンスの選択が完了したら、[管理 (Manage)]、[EEB/アドオンのアンインストール (Uninstall EEB/Add-on)] の順にクリックします。
- 2 [EEB (パッチ) のアンインストール (Uninstall EEB (patch))] ページ (手順 1: アプライアンス選択の確認) で、[ホーム (Home)] ページで選択したアプライアンスの情報を確認します。一覧が正しい場合は、[次へ (Next)] をクリックします。
変更する場合は、[ホーム (Home)] ページに戻って変更します。このページに戻って選択内容を確認し、[次へ (Next)] をクリックします。
- 3 [EEB を入力してアンインストールする (Enter EEB to uninstall)] ページで、適切な EEB パッケージの名前を入力し、[次へ (Next)] をクリックします。

メモ: 指定できるパッケージは 1 つだけです。

- 4 [確認とアンインストール (Confirm and Uninstall)] ページで、EEB パッケージをアンインストールするアプライアンスの一覧を確認します。次に、[アンインストール (Uninstall)] をクリックしてアンインストールを開始します。
- 5 アクティビティ 모니터の[状態 (State)] 列で、次のように表示される各アプライアンスの EEB のアンインストールの進捗状況と結果を確認します。
 - キューに投入されています (In queue)
EEB のアンインストールが予定されています。
 - 処理中 (In progress)
EEB のアンインストールが開始されています。
 - 成功 (Successful)
EEB のアンインストールが完了しました。
 - 失敗 (Failed)
EEB のアンインストールが失敗しました。

ステージングパッケージについて

[ステージ (Stage)] ページでは、インストールまたはアップグレードを後で実行するアプライアンスのパッケージをステージングできます。この処理により、選択したパッケージが選択したアプライアンスにアップロードされます。後でこれらのアプライアンスで EEB のインストールやアップグレードを実行する際、パッケージのダウンロードはスキップされます。

ワークフローの各タスクはページの上部に一覧表示されます。タスクを完了して次に進むと、ページが更新され、次の手順に関する詳細と新しい列見出しが表示されます。

[ステージ (Stage)] ページの各タスクの詳細と列ヘッダーは次のとおりです。

1. アプライアンス選択の確認 (Confirm appliance selection)

Selected appliances (2)	Version
sofa01vm06 engba.veritas.com	3.2.1
sofa01vm09 engba.veritas.com	3.3.0.1

- 選択したアプライアンス (数) (Selected appliances (n))。各アプライアンスのホスト名と選択したアプライアンスの合計数。
- バージョン (Version)。選択したアプライアンスの現在のソフトウェアバージョン。

2. パッケージを選択 (Select packages)

File name	Appliance	Package type	File size	Version
☐ NBAPP_EEB_ET3968766-3.2.1-2.x86_64.rpm	NBA	EEB	46.3 MB	3.2.1
☐ NBAPP_EEB_ET3968766-3.2.1.0-2.x86_64.rpm	NBA	EEB	46.3 MB	3.2.1.0
☐ NBAPP_EEB_ET3980945-3.2.1.0-1.x86_64.rpm	NBA	EEB	4.6 MB	3.2.1.0
☐ SYMC_NBAPP_update-3.2.2-1.x86_64.rpm	NBA	Upgrade	46.3 MB	3.2.2
☐ SYMC_NBAPP_update-3.3-1.x86_64.rpm	NBA	Upgrade	46.3 MB	3.3
☐ SYMC_NBAPP_update_ReadinessAnalyzer-3.2.2-1.noarch.rpm	NBA	Upgrade Readiness Analyzer	74.3 MB	3.2.2
☐ SYMC_NBAPP_update_ReadinessAnalyzer-3.3-1.noarch.rpm	NBA	Upgrade Readiness Analyzer	74.3 MB	3.3

- ファイル名 (File name)。リポジトリに存在する互換性のある各パッケージの完全名。
- アプライアンス (Appliance)。アプライアンスのタイプ (NBA)。
- パッケージのタイプ (Package type)。パッケージのタイプ (EEB、アップグレード、Readiness Analyzer のアップグレード)。

- ファイルサイズ (File Size)。各パッケージのサイズ。
 - バージョン (Version)。各パッケージのソフトウェアバージョン。
3. 確認と送信 (Confirm and submit)

Hostname	Version
sofia01m06.engba.veritas.com	3.2.1

- 選択したパッケージ (Selected packages)。選択したパッケージのファイル名。
- ホスト名 (Hostname)。各アプライアンスのホスト名とリストされたアプライアンスの合計数。
- バージョン (Version)。アプライアンスの現在のソフトウェアバージョン。

パッケージのステージングに関する考慮事項

Appliance Management Console からアプライアンスのパッケージをステージングする場合は、次の考慮事項を確認します。

- AMA のバージョンが 1.4 以降の NetBackup Appliance では、アプライアンスでパッケージをリモートからステージングする機能を利用できます。アプライアンスでこれらの処理を実行する前に、以前のバージョンのエージェントを更新する必要があります。
- 複数のアプライアンスのパッケージを同時にステージングすることは可能です (選択したアプライアンスのソフトウェアバージョンが一致する場合)。
- 一度にステージングできるのは 2 つのパッケージのみです。それより多い数のパッケージをステージングするには、残りのパッケージと選択された同じアプライアンスに対して同じ手順を繰り返します。

インストールまたはアップグレードのためのパッケージのステージング

Appliance Management Console からアプライアンスのパッケージをステージングする際の考慮事項を必ず確認してください。

p.45 の「[パッケージのステージングに関する考慮事項](#)」を参照してください。

パッケージをステージングするには

- 1 [ホーム (Home)] ページで、アップグレードするアプライアンスを選択し、[管理 (Manage)]、[パッケージのステージング (Stage packages)] の順にクリックします。
- 2 [ステージ (Stage)] ページ (手順 1: アプライアンス選択の確認) で、[ホーム (Home)] ページで選択したアプライアンスの情報を確認します。

この情報のリストが正しい場合は、[次へ (Next)] をクリックします。

そうでない場合は、[戻る (Back)] をクリックして [ホーム (Home)] ページに戻り、選択内容を変更します。

- 3 更新されたページ (手順 2: パッケージを選択) で、対応するチェックボックスを使用してステージングするパッケージを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

メモ: リポジトリで利用可能なすべてのパッケージが一覧表示されます。ただし、ステージング用に選択できるのは、一度に 2 つのパッケージまでです。

- 4 更新されたページ (手順 3: 確認とステージング) で、[ステージ (Stage)] をクリックしてステージング操作を開始します。

操作の進行状況は、[アクティビティモニター (Activity Monitor)] ページに表示されます。タイムスタンプが最新のアプライアンスの [状態 (State)] 列では、操作の状態が次のように表示されます。

- キューに投入されています (In queue)
この操作は、アプライアンスでの別のアクティビティの完了を待機しています。
- 処理中 (In progress)
操作が開始されました。
- 成功 (Successful)
操作が正常に完了しました。
- 失敗 (Failed)
処理が失敗しました。メッセージを確認し、操作を再試行する前に、問題を特定してトラブルシューティングします。

ファイルのアップロードのイベントも、対応するタイムスタンプとともに [イベント (Events)] ページに表示されます。

サービスの管理について

[サービスの管理 (Manage Services)] ページでは、特定のサービスをアプライアンスで開始、停止、または再起動できます。ワークフローの各タスクはページの上部に一覧表示されます。タスクを完了して次に進むと、ページが更新され、次の手順に関する詳細と新しい列見出しが表示されます。

[サービスの管理 (Manage Services)] ページの各タスクの詳細と列ヘッダーは次のとおりです。

1. アプライアンス選択の確認 (Confirm appliance selection)

Selected appliances (1)	Version
sofia01vm09.engba.veritas.com	3.2.1

- 選択したアプライアンス (数) (Selected appliances (n)). 各アプライアンスのホスト名と選択したアプライアンスの合計数。
- バージョン (Version)。選択したアプライアンスの現在のソフトウェアバージョン。

2. 処理とサービスを選択 (Select action and service)

- 処理の種類の選択 (Action type selection)。実行する処理 (開始、停止、または再起動)。
- {オプション 2} サービス形式の選択 (Service type selection)。開始、停止、または再起動するサービスの形式 (NetBackup サービス、アプリケーションインフラサービス、または名前で指定する特定のサービス)。サービスを個別に開始または停止することはできませんが、サービス名を指定して一度に 1 つのサービスを再起動することは可能です。

選択したサービスがすでに開始または停止している状態で、これらのサービスに対して開始または停止をそれぞれ選択しても、処理は実行されません。情報メッセージがログに記録され、アクティビティモニターに表示されます。

Appliance Management Console では、選択したアプライアンスがエージェントとしてではなく AMS として登録されている場合、アプリケーションインフラサービスは再起動できません。同様に、amsagent サービスも再起動できません。

3. 確認と送信 (Confirm and submit)

Hostname	Version	Selected action and service
sofia01vm09.engba.veritas.com	3.3.0.1	Start NetBackup Services

- ホスト名 (Hostname)。各アプライアンスのホスト名とリストされたアプライアンスの合計数。
- バージョン (Version)。アプライアンスの現在のソフトウェアバージョン。
- 選択した処理とサービス (Selected action and service)。指定したサービスの名前と、それらのサービスで実行される処理。

サービスを管理するための必要条件

アプライアンスでサービスを管理するための必要条件について、Appliance Management Console で確認してください。

- AMA のバージョンが 1.4 以降の NetBackup Appliance では、アプライアンスでサービスをリモート管理する機能を利用できます。アプライアンスでこれらの処理を実行する前に、以前のバージョンのエージェントを更新する必要があります。
- 複数のアプライアンスのサービスを同時に管理することは可能です (選択したアプライアンスのソフトウェアバージョンが一致する場合)。

サービスの開始、停止、再起動

アプライアンスのサービスを管理するための必要条件に対応していることを Appliance Management Console で確認します。

p.48 の「[サービスを管理するための必要条件](#)」を参照してください。

サービスを開始、停止、または再起動するには

- 1 [ホーム (Home)] ページで、アップグレードするアプライアンスを選択し、[管理 (Manage)]、[サービスの管理 (Manage services)] の順にクリックします。
- 2 [サービスの管理 (Manage Services)] ページ (手順 1: アプライアンス選択の確認) で、[ホーム (Home)] ページで選択したアプライアンスの情報を確認します。

この情報のリストが正しい場合は、[次へ (Next)] をクリックします。

そうでない場合は、[戻る (Back)] をクリックして [ホーム (Home)] ページに戻り、選択内容を変更します。

- 3 更新されたページ (手順 2: 処理とサービスを選択) で、[処理の種類の選択 (Action type selection)] ドロップダウンリストから処理を選択します。

次に、開始、停止、または再起動するサービスの種類を選択します。または、再起動するサービスの名前を入力します。

メモ: サービス名の指定は、[再起動 (Restart)] が選択されている場合にのみ可能です。サービスを個別に開始または停止することはできません。

[次へ (Next)] をクリックします。

- 4 更新されたページ (手順 3: 確認と送信) で、[送信 (Submit)] をクリックして操作の開始、停止、または再起動を始めます。

操作の進行状況は、[アクティビティモニター (Activity Monitor)] ページに表示されます。タイムスタンプが最新のアプライアンスの [状態 (State)] 列では、操作の状態が次のように表示されます。

- キューに投入されています (In queue)
この操作は、アプライアンスでの別のアクティビティの完了を待機しています。
- 処理中 (In progress)
操作が開始されました。
- 成功 (Successful)
操作が正常に完了しました。
- 失敗 (Failed)
処理が失敗しました。メッセージを確認し、操作を再試行する前に、問題を特定してトラブルシューティングします。

サービスの開始、停止、および再開のイベントは、対応するタイムスタンプとともに [イベント (Events)] ページにも表示されます。

メンテナンスリリースパッケージのインストール

[メンテナンスリリース (Maintenance Release)] ページでは、メンテナンスリリースを複数のアプライアンスに同時にインストールできます。

メンテナンスリリースパッケージをインストールするには

- 1 アプライアンスより後のバージョンのメンテナンスリリースパッケージをインストールする場合は、**NetBackup Appliance** シェルメニューで次のコマンドを使用して **Appliance Upgrade Readiness Analyzer** を実行します。

```
Manage > Software > Install Analyzer file name
```

- 2 [ホーム (Home)] ページで、インストールするアプライアンスを選択します。選択したすべてのアプライアンスで、同じソフトウェアバージョンを使用している必要があります。アプライアンスの選択が完了したら、[管理 (Manage)]、[メンテナンスリリース (Maintenance Release)] の順に選択します。

- 3 [MR パッケージのインストール (Install MR package)] ページ (手順 1: アプライアンス選択の確認) で、[ホーム (Home)] ページで選択したアプライアンスの情報を確認します。一覧が正しい場合は、[次へ (Next)] をクリックします。

変更する場合は、[ホーム (Home)] ページに戻って変更します。このページに戻って選択内容を確認し、[次へ (Next)] をクリックします。

- 4 更新されたページ (手順 2: MR パッケージの選択) で、[インストール (Install)] をクリックしてパッケージのインストールを開始し、[アクティビティモニター (Activity Monitor)] ページに移動します。選択したアプライアンスの **NetBackup** バージョンに適用可能および利用可能なパッケージが [選択したパッケージ (Selected package)] 列に表示されます。

メモ: パッケージは 1 つしか選択できません。

- 5 [アクティビティモニター (Activity Monitor)] ページでアプライアンスの行を展開して、インストールの手順ごとの進捗状況を確認します。

AMS は次のアクティビティを順番に実行します。

- MR パッケージをダウンロードします。選択したアプライアンスにパッケージがすでに存在する場合、この手順はスキップされます。
- MR パッケージをインストールします。これにはプレフライトチェックとインストール前のセルフテストが含まれます。インストール前のチェックポイントが作成されます。これにより、処理中にエラーが発生した場合はインストールが中止され、アプライアンスがチェックポイントにリストアされます。

処理が完了すると、状態が [成功 (Successful)] として表示されます。

制限事項

- メンテナンスリリースパッケージは、**AMS 1.4.1** 以降を使用してインストールできます。
- AMS アプライアンス自体にはメンテナンスリリースパッケージを適用できません。

- また、アプライアンスのエージェントのバージョンを **1.4.1** にアップグレードする必要があります。アップグレードしていない場合、インストール処理の開始後に[アクティビティモニター (**Activity Monitor**)]に次のエラーが表示されます。

```
V-409-919-1802: The node-update task is not supported for this
appliance configuration. This problem could be related to older
agent
version. Review the AMS documentation to find out minimum
requirements
for node-update task. Error: Playbook not defined.
```

アクティビティとイベントの監視

この章では以下の項目について説明しています。

- [アクティビティモニターについて](#)
- [アクティビティモニターへのアクセス](#)
- [イベントの監視](#)
- [マイアプライアンスポータルへのアクセス](#)

アクティビティモニターについて

Appliance Management Console でアクティビティモニターを使用して、過去 90 日間のすべてのタスクを監視します。アクティビティモニターには、アップグレードまたは更新中のアプライアンスのホスト名も一覧表示されます。ホスト名の他に、タスク、状態、詳細、タスクの開始時間についての詳細も一覧表示されます。

アップグレードまたは EEB インストールの開始、実行中、失敗、完了に伴って、アクティビティモニターが更新されます。更新サイクルはありません。ただちに更新が行われます。

EEB のインストールまたはアップグレードは、アクティビティモニターで確認できるように、**Appliance Management Console** から開始する必要があります。

メモ: 過去 90 日より前のタスクを監視することはできません。

アクティビティモニターへのアクセス

アクティビティモニターには、過去 90 日間に発生したすべてのタスクの概略が表示されます。失敗したタスクと完了したタスク、さらに実行中のタスクなど、すべてのタスクが表示されます。

アクティビティモニターにアクセスするには

- 1 適切な AMS ユーザーのクレデンシャルを使用して、Appliance Management Console にサインインします。
- 2 [アクティビティ (Activity)]アイコンをクリックします。
- 3 または、[監視 (Monitor)]アイコンをクリックし、[監視 (Monitor)]ページで[アクティビティモニター (Activity Monitor)]の[表示 (View)]をクリックします。

イベントの監視

Appliance Management Console の[監視 (Monitor)] > [イベント (Events)]ページで、AMS と管理対象エージェントで発生するイベントを監視します。

過去 6 カ月間に発生したイベントが表示されます。過去 90 日間のイベントを CSV ファイルでエクスポートすることもできます。

過去 90 日間のイベントを CSV ファイルでエクスポートするには、[エクスポート (Export)]をクリックします。

図 5-1 に、[イベント (Events)]ページのサンプルを示します。

図 5-1 [イベント (Events)]ページ

Events							×
Export		Search...				Q	
UMI code	Severity	Hostname	Description	Category	Username	Timestamp	
V-409-919-1501	 Information	Agent 1	Appliance was set as an AMS	Application	admin	Jul 31, 2017 22:21:03	
V-409-919-2001	 Information	Agent 2	Access key was regenerated	Application	amsadmin	Aug 01, 2017 11:06:59	
V-409-919-1502	 Information	Agent 3	Appliance was registered to AMS	Application	admin	Aug 01, 2017 11:28:05	
V-409-919-1502	 Information	Agent 4	Appliance was registered to AMS	Application	admin	Aug 01, 2017 11:28:23	
V-409-919-1502	 Information	Agent 5	Appliance was registered to AMS	Application	admin	Aug 01, 2017 11:50:57	

発生する可能性があるイベントの例を示します。

- アプライアンスが AMS として設定された
- アプライアンスが AMS に追加された
- パッケージがリポジトリに追加された
- パッケージがリポジトリから削除された
- アップグレードを開始した
- アップグレードが完了した
- アップグレードが失敗した
- プレフライトチェックを開始した
- プレフライトチェックが完了した
- プレフライトチェックが失敗した
- EEB のインストールを開始した
- EEB のインストールが完了した
- EEB のインストールが失敗した
- ユーザーのパスワードが変更された
- アクセスキーが再生成された
- アクセスキーを再生成できない
- AMS アップデートを開始した (<パッケージ名>)
- AMS アップデートが完了した (<パッケージ名>)
- AMA アップデートを開始した (パッケージ名)
- AMA アップデートが完了した (パッケージ名)

メモ: 管理アップデートパッケージを使用して 3.1.1 AMS をバージョン 1.2 にアップデートするとき、[監視 (Monitor)]、[イベント (Events)] ページにイベント[AMS アップグレードを開始した (AMS upgrade has started)]が表示されることがあります。これは正しくなく、AMS アップグレードではなく AMS アップデートと表示される必要があります。

アップデートの完了時に、別のイベント[AMS アップデートが完了した (AMS update is complete)]がログ記録されます。このイベントは、AMS アップデートとしてイベントを正しく説明しています。

各イベントは、特定のホスト (AMS またはエージェント) に接続され、重大度を持ちます。イベントの重大度は、次のいずれかです。

イベントの重大度 説明

情報 (Information) 通常のシステム操作に関する情報。

エラー (Error) すぐに対処する必要がある問題を示します。1 つ以上の操作が失敗したことを示している可能性があります。

警告 (Warning) エラーを引き起こす可能性がある状態について警告を表示します。

サポートサイトで UMI (Unique Message Identifier) コード列を検索すると、イベントの詳細を確認できます。以下のサポートサイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

マイアプライアンスポータルへのアクセス

マイアプライアンスポータルは、[監視 (Monitor)] タブからアクセスできます。[起動 (Launch)] をクリックし、Veritas Account Manager にログインしてマイアプライアンスポータルを表示します。マイアプライアンスポータルでは、アプライアンスの登録、既存の登録済みアプライアンスの表示や編集、サポートケースの表示、ハートビートデータの調査ができます。

リポジトリの管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [リポジトリの管理について](#)
- [リポジトリにアップグレードパッケージまたはファイルを追加する場合のガイドライン](#)
- [リポジトリへのアクセス](#)
- [リポジトリへのアップグレードパッケージまたは EEB ファイルの追加](#)
- [アップグレードパッケージまたは EEB ファイルのリポジトリからの削除](#)

リポジトリの管理について

[リポジトリ (Repository)] ページでは、Appliance Management Server (AMS) に保存できるアップグレードパッケージと EEB (Emergency Engineering Binary) ファイルを管理できます。

各パッケージの簡単な説明を次に示します。

- アップグレードパッケージ (リリース更新)
これらのパッケージは、オペレーティングシステム、アプライアンスソフトウェア、NetBackup ソフトウェアなどのすべてのアプライアンスアプリケーションをアップグレードします。
- EEB ファイル (パッチ)
これらのファイルは、アプライアンスソフトウェアの特定のバージョンにおける特定の問題を修正します。
- Appliance Management の更新
このパッケージで、Appliance Management Server を更新します。パッケージには、管理サーバー用の修正と新機能が含まれます。このパッケージは管理機能を更新しますが、AMS のアプライアンスソフトウェアには影響しません。
- Upgrade Readiness Analyzer

このパッケージは、**Upgrade Readiness Analyzer** ツールを更新するほか、ツールの修正と新機能が含まれています。このパッケージは分析ツールを更新しますが、AMS のアプライアンスソフトウェアには影響しません。

次に、リポジトリを管理するための機能と、リポジトリ内にあるパッケージまたはファイルについて表示される詳細情報について説明します。

- **[追加 (Add)]**: リポジトリに追加するパッケージまたはファイルを見つけて選択できるダイアログボックスが開きます。パッケージまたはファイルをリポジトリに追加すると、上部に最新の追加が表示されます。
- **[削除 (Delete)]**: 選択したパッケージまたはファイルをリポジトリから削除できます。
- **[ファイル名 (File name)]**: パッケージまたはファイルの完全な名前。ファイル名をクリックすると、パッケージについての詳細が表示されます。EEB ファイルの場合は、対応する **Readme** の内容が表示されるため、EEB の一部として提供される更新を確認できます。
- **[アプライアンス (Appliance)]**: パッケージを適用できるアプライアンスのタイプ。たとえば、**NBA** や **AMS** などです。
- **[パッケージのタイプ (Package type)]**: パッケージまたはファイルのタイプ。EEB、アップグレード、**Appliance Management** の更新、または **Update Readiness Analyzer** です。
- **[ファイルサイズ (File Size)]**: パッケージまたはファイルのサイズ。
- **[バージョン (Version)]**: アップグレードパッケージのソフトウェアバージョン、EEB ファイルに関連するアプライアンスソフトウェアバージョン、または **AMS** 更新パッケージのバージョン。

次の図は、いくつかのパッケージが追加された後のリポジトリを示しています。

Repository				
Before you can add packages to the Repository, you must first download them from the Veritas Support website .				
+ Add		Search...		
☐ File name	Appliance	Package type	File size	Version
☐ NBAPP_EEB_3.1.2.0-2.x86_64.rpm	NBA	EEB	52.5 KB	3.1.2.0
☐ SYMC_NBAPP_update-3.2-1.x86_64.rpm	NBA	Upgrade	46.3 MB	3.2
☐ SYMC_NBAPP_update_ReadinessAnalyzer-3.2-1.noarch.rpm	NBA	Upgrade Readiness Analyzer	74.3 MB	3.2
☐ Veritas-ApplianceManagement-1.4.0-20200722025628.x86_64.rpm	AMS	Appliance Management Update	18.4 MB	1.4.0

リポジトリにアップグレードパッケージまたはファイルを追加する場合のガイドライン

リポジトリにアップグレードパッケージを追加する場合は、次のガイドラインを使用します。

- ベリタスサポートサイトからダウンロードしたアップグレードパッケージまたは EEB ファイルのみを追加する
- アップグレードパッケージ名や EEB ファイル名は変更しない
- 10 GB を超えるパッケージまたはファイルは追加しない
- パッケージまたはファイルを追加する前に、追加するのに十分な領域がリポジトリにあることを確認する

メモ: バージョン 3.1 にアップグレードしたら、パッケージまたはファイルをリポジトリに追加する前に、/config パーティションのサイズを 150 GB に増やす必要があります。CBiljan 9/14/2017: APPSOL-72024 to be fixed post 3.1.NetBackup Appliance シェルメニューにログインし、Main_Menu > Manage > Storage ビューに移動します。次に、パーティションのサイズを 150 GB に変更するため、コマンド `Resize Configuration 150GB` を実行します。

リポジトリへのアクセス

リポジトリは、コンソールから直接または[設定 (Settings)] ページからアクセスできます。

リポジトリにアクセスするには

- 1 適切な AMS ユーザーのクレデンシャルを使用して、Appliance Management Console にサインインします。
- 2 [リポジトリ (Repository)] アイコンをクリックします。
- 3 または、[設定 (Settings)] アイコンをクリックして、[設定 (Settings)] ページで[リポジトリ (Repository)]をクリックします。

リポジトリへのアップグレードパッケージまたは EEB ファイルの追加

リポジトリにアップグレードパッケージまたは EEB ファイルを追加するには、次の操作を実行します。

- パッケージまたはファイルをベリタスからダウンロードします。
- AMS から、ダウンロードしたパッケージまたはファイルを検索し、リポジトリに追加します。

アップグレードパッケージまたは EEB ファイルをダウンロードしてリポジトリに追加するには、次の手順を使用します。

パッケージまたは EEB ファイルをダウンロードしてリポジトリに追加するには

- 1 アプライアンスドメイン内のコンピュータで、適切なパッケージまたはファイルをベリタスからダウンロードします。
- 2 同じコンピュータで、適切な AMS ユーザーのクレデンシアルを使用してブラウザから **Appliance Management Console** にサインインします。
- 3 [リポジトリ (Repository)] ページで、[追加 (Add)] をクリックします。
- 4 表示されるダイアログボックスで、次の操作を行います。
 - ダイアログボックスの上部で、ドロップダウンリストをクリックして、ベリタスからパッケージまたはファイルをダウンロードした場所に移動します。
 - 表示される項目のリストから、ダウンロードしたパッケージまたはファイルを選択し、[開く (Open)] をクリックします。
パッケージまたはファイルは、[リポジトリ (Repository)] ページのリストの上部に表示されます。

アップグレードパッケージまたは EEB ファイルのリポジトリからの削除

パッケージまたは EEB ファイルを [リポジトリ (Repository)] から完全に削除するには、次の手順を使用します。

アップグレードパッケージまたは EEB ファイルをリポジトリから完全に削除するには

- 1 適切な AMS ユーザーのクレデンシアルを使用して、ブラウザから **Appliance Management Console** にサインインします。
- 2 不要になったパッケージまたはファイルの横にあるチェックボックスをクリックします。すべてのパッケージとファイルを選択するには、リストの最初の項目の上に表示されるチェックボックスをクリックします。
- 3 [削除 (Remove)] をクリックします。

以前のバージョンのアップライ アンスに管理更新プログラ ムを適用する

この章では以下の項目について説明しています。

- 以前のバージョンの [AMS](#) とエージェントでサポートされるアップデートとダウンロード
- [AMS アップデートの管理](#)
- [自動または手動のエージェントアップデートの実行](#)

以前のバージョンの **AMS** とエージェントでサポートされ るアップデートとダウンロード

NetBackup Appliance 4.1 には、最新バージョンの AMS/エージェントソフトウェア (1.4.2) が含まれています。NetBackup Appliance 3.1.1 以降にインストールされている AMS/エージェントのバージョンは、適切な管理アップデートパッケージをダウンロードしてインストールすることで更新できます。

AMS のアップデート後、AMS に追加されるエージェントは、自動または手動でアップデートできます。AMS とエージェントをアップデートするための手順は、次のセクションに表示されます。

p.61 の「[AMS アップデートの管理](#)」を参照してください。

p.63 の「[自動または手動のエージェントアップデートの実行](#)」を参照してください。

AMS およびエージェントのバージョンは、Appliance Management Console の [ホーム (Home)] ページで確認できます。これらは、[AMS/エージェントのバージョン (AMS/Agent version)] 列に表示されます。

次の表に、対応するアプライアンスソフトウェアのバージョンに含まれている AMS/エージェントのバージョンを一覧表示します。

NetBackup Appliance ソフトウェアのバージョン	AMS/エージェントのバージョン	サポートされているアップデート
3.3.0.1	1.4	AMS/エージェント
3.2	1.3	AMS/エージェント
3.1.2	1.2	AMS/エージェント
3.1.1	1.1	AMS
3.1	1.0	なし
3.0	1.0	なし
2.7.3	1.0	なし

メモ: AMS 1.4.1 は NetBackup Appliance ソフトウェアに含まれていません。ダウンロードセンターから個別にダウンロードする必要があります。

AMS アップデートの管理

管理アップデートパッケージには、Appliance Management Server (AMS) とエージェントの修正や新機能が含まれています。AMS とエージェントの両方をアップデートし、AMS/エージェントのバージョンが同じになるようにすることをお勧めします。

メモ: AMS は、インストールされている AMS のバージョンが 1.1 以降の場合にのみ更新できます。

管理アップデートパッケージは管理機能を更新しますが、AMS のアプライアンスソフトウェアには影響しません。

メモ: AMS のアプライアンスソフトウェアをアップグレードする場合は、NetBackup Appliance シェルメニューを使用します。詳しくは、『NetBackup Appliance アップグレードガイド』を参照してください。

AMS に管理アップデートをインストールするには、次の手順を使用します。

AMS に管理アップデートをインストールするには

- 1 この手順を開始する前に、管理アップデートパッケージを AMS のリポジトリに追加します。

アプライアンスドメイン内のコンピュータで、適切なパッケージまたはファイルを Veritas Entitlement Management System (VEMS) からダウンロードします。VEMS にアクセスするには、ベリタスのサポート Web サイトに移動し、[ライセンス (Licensing)] をクリックします。Veritas-ApplianceManagement-amsVersion-dateTimeStamp.x86_64.rpm ファイルをダウンロードします。
- 2 同じコンピュータから別のブラウザウィンドウを開き、AMS ユーザーとして AMS にログインします。
- 3 [設定 (Settings)] ページで、[リポジトリ (Repository)] をクリックします。
- 4 [リポジトリ (Repository)] ページで、[追加 (Add)] をクリックします。
- 5 表示されるダイアログボックスで、次の操作を行います。
 - ダイアログボックスの上部で、ドロップダウンリストをクリックして、ベリタスからパッケージまたはファイルをダウンロードした場所に移動します。
 - 表示される項目のリストから、ダウンロードしたパッケージまたはファイルを選択し、[開く (Open)] をクリックします。パッケージまたはファイルは、[リポジトリ (Repository)] ページのリストの上部に表示されます。
- 6 パッケージをリポジトリに追加すると、次のメッセージが [ホーム (Home)] ページに表示されます。

 A new package is available for  veritas.com (AMS). To update the AMS, click [Settings > Update AMS](#).

- 7 [設定 (Settings)]、[AMS のアップデート (Update AMS)] の順に移動します。

メモ: AMS 3.1.1 で管理アップデートパッケージをリポジトリに追加しても、[設定 (Settings)] ページに [AMS のアップデート (Update AMS)] オプションが表示されないことがあります。この問題を解決するには、Appliance Management Console の他のページに移動し、[設定 (Settings)] ページに戻ります。

- 8 表示される画面を確認し、[アップデート (Update)]をクリックします。
[アップデート (Update)]をクリックしてからログアウトすると、AMS の管理機能の更新がバックグラウンドで開始されます。

メモ: AMS アップデートには通常 1 分かかりますが、環境要因によってはさらに時間がかかることがあります。

- 9 サインインページにリダイレクトされます。AMS 役割を持つユーザーとしてログオンし、Appliance Management Console にアクセスします。
[監視 (Monitor)]、[アクティビティモニター (Activity Monitor)]の順にクリックして、AMS アップデートタスクの詳細を表示します。AMS アップデートの完了には通常数分かかります。

AMS のバージョンは、各画面の左上隅にある「Veritas Appliance Management Console」というテキストの下にも表示されます。

- 10 Veritas では、AMS を更新した後、AMS に追加されるエージェントを更新して、AMS/エージェントのバージョンが同じになるようにすることを推奨しています。これらのエージェントのアップデートを自動または手動で行うことを選択できます。

メモ: アプライアンスソフトウェアのバージョンが 3.1.1 以降のエージェントのみを更新できます。

p.63 の「[自動または手動のエージェントアップデートの実行](#)」を参照してください。

自動または手動のエージェントアップデートの実行

AMS が更新されたら、エージェントを最新バージョン (1.4.2) に更新できるように自動アップデートを設定できます。デフォルトでは、このオプションは無効に設定されています。アプライアンスソフトウェアのバージョンが 3.1.1 以降のエージェントを更新できます。

この手順を開始する前に、必要な管理アップデートパッケージを所有し、それを AMS 上のリポジトリに追加する必要があります。これは、自動アップデートが動作するために必要です。

エージェントの自動アップデートを構成するには

- 1 Appliance Management Console にログインします。
- 2 [設定 (Settings)]をクリックし、[自動アップデートエージェント (Auto-update agents)]をクリックします。
- 3 [自動アップデートエージェント (Auto-update agents)]スライダを切り替え、自動アップデートを有効にします。この機能を有効にすると、各エージェントが次の 24 時間以内に自動的にアップデートされます。エージェントが次の 24 時間以内にアップデートされるため、アップデートされたエージェントのバージョンが[ホーム (Home)]ページに表示されるまでに時間がかかることがあります。[監視 (Monitor)]、[アクティビティモニター (Activity Monitor)]の順にクリックして、アプライアンスごとの AMA アップデートタスクの詳細を表示することもできます。

自動アップデートを無効にする場合は、AMS バージョンと一致するように各エージェントを手動でアップデートする必要があります。ペリタスのサポート Web サイトから必要な管理アップデートパッケージをダウンロードし、それをリポジトリに追加して、次の手順を使用する必要があります。

エージェントを手動でアップデートするには

- 1 Appliance Management Console にログインします。
- 2 [ホーム (Home)]ページで、エージェントのホスト名をクリックします。
- 3 [概要 (Overview)]ページで、[アップデート (Update)]をクリックします。
[監視 (Monitor)]、[アクティビティモニター (Activity Monitor)]の順にクリックして、アプライアンスごとの AMA アップデートタスクの詳細を表示することもできます。[ホーム (Home)]ページの[AMS/エージェントのバージョン (AMS/Agent version)]列からアップデートされたエージェントのバージョンを表示できます。
- 4 AMS を使用するすべてのエージェントに対しこの手順を繰り返します。

NetBackup Virtual Appliance での AMS の実行

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Virtual Appliance での AMS](#)
- [NetBackup を構成せずに、仮想アプライアンスでスタンドアロン AMS を構成する](#)
- [仮想アプライアンスでプライマリサーバーまたはメディアサーバーおよび AMS を構成する](#)
- [Appliance Management Console のログインとユーザーパスワードの変更](#)

NetBackup Virtual Appliance での AMS

NetBackup Appliance 3.2 (AMS 1.3) 以降では、AMS を NetBackup Virtual Appliance に配備できます。

この機能を使用すると、次のユースケースに対処できます。

- プライマリサーバーまたはメディアサーバーとしてではなく、AMS として動作するように VM を構成する
p.66 の「[NetBackup を構成せずに、仮想アプライアンスでスタンドアロン AMS を構成する](#)」を参照してください。
- AMS としてだけでなく、プライマリサーバーまたはメディアサーバーとしても動作するように VM を構成する
p.67 の「[仮想アプライアンスでプライマリサーバーまたはメディアサーバーおよび AMS を構成する](#)」を参照してください。

メモ: Veritas では、NetBackup Virtual Appliance で NetBackup プライマリサーバーまたはメディアサーバーの役割を構成することをお勧めします。このような役割が構成されていない場合は、Active Directory のサポートを利用できません。

OVF テンプレート

NetBackup Virtual Appliance の OVF テンプレートは、次の場所からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads

NetBackup Virtual Appliance のリモートオフィスと支店 (ROBO) のプライマリサーバーとメディアサーバーの組み合わせテンプレート

(NetBackup_VA_ROBO_VMware_3.2_EN.ova) ファイルをダウンロードして使用します。

システム要件

NetBackup Virtual Appliance での AMS のシステム要件は次のとおりです。

- 最小 16 GB の RAM
- 500 GB 以上のストレージ
- 大きなファイル (GB 単位以上) を転送するには、物理ネットワーク接続が必要です。

メモ: システム要件と配備手順について詳しくは、Veritas NetBackup Virtual Appliance のマニュアルを参照してください。

既知の問題

AMS として構成されているアプライアンスが Appliance Management Console の [ホーム (Home)] ページに 2 つ表示されることがあります。この問題は、AMS の動作に干渉しないため、無視しても問題ありません。繰り返されるエントリのいずれかをクリックして詳細を表示したり、いずれかのエントリを選択してアクションを実行したりできます。

NetBackup を構成せずに、仮想アプライアンスでスタンドアロン AMS を構成する

この構成では、VM を作成し、VM をプライマリサーバーまたはメディアサーバーとして設定せずに、VM で AMS を設定します。この構成の利点は、VM をすばやく設定できることと、VM がシンプロビジョニングされるため、ストレージ要件が低いことです。

この構成を実行する前に、次の考慮事項を確認してください。

- AMS リポジトリには 50 GB のストレージ容量を使用できます。

- NetBackup プライマリサーバーおよび NetBackup メディアサーバーオプションは使用できません。
- この仮想アプライアンスを AMS として設定した後にプライマリサーバーまたはメディアサーバーとして構成すると、AMS 構成は抹消されます。アプライアンスをプライマリサーバーまたはメディアサーバーとして構成した後に、新しい AMS を構成できます。以前に AMS に登録されていたすべてのアプライアンスを、この新しく構成された AMS に再登録する必要があります。

スタンドアロン AMS を作成するタスク

1. デフォルトのリソース要件に従った OVA を配備します。
ストレージはシンプロビジョニングされます。
2. ネットワークとホスト名を設定します。
3. NetBackup Appliance シェルメニューからコマンドシーケンス Appliance > Management Server を使用して、AMS を構成します。
p.15 の「[AMS としてのアプライアンスの構成](#)」を参照してください。
4. AMS にサインインするユーザーを設定します。
p.17 の「[ユーザーまたはユーザーグループへの AMS ロールの付与](#)」を参照してください。

仮想アプライアンスでプライマリサーバーまたはメディアサーバーおよび AMS を構成する

この構成では、プライマリサーバーまたはメディアサーバーとして、および AMS として VM を作成します。この場合、AMS は構成パーティションを使用します。そのため、AMS 用に大きなリポジトリが必要な場合は、この方法で設定します。

プライマリサーバーまたはメディアサーバーと共に AMS を作成するタスク

1. デフォルトのリソース要件に従った OVA を配備します。
ストレージはシンプロビジョニングされます。
2. ネットワークとホスト名を設定します。
3. NetBackup プライマリサーバーまたは NetBackup メディアサーバーの役割を構成します。
4. NetBackup Appliance シェルメニューからコマンドシーケンス Appliance > Management Server を使用して、AMS を構成します。
p.15 の「[AMS としてのアプライアンスの構成](#)」を参照してください。
5. AMS にサインインするユーザーを設定します。

p.17 の「ユーザーまたはユーザーグループへの AMS ロールの付与」を参照してください。

Appliance Management Console のログインとユーザーパスワードの変更

AMS の機能は、次の点のみが NetBackup Appliance および NetBackup Virtual Appliance と異なります。

- [ログイン (Login)] ページ
NetBackup ソフトウェアアプライアンスには、Appliance Management Console のログインページを提供する NetBackup Appliance Web コンソールがあります。NetBackup Appliance Web コンソールは、NetBackup Virtual Appliance では使用できません。NetBackup Virtual Appliance では、AMS が別のログインページを提供します。
- ユーザーパスワードの変更
NetBackup Appliance では、Appliance Management Console を使用して、ユーザーパスワードを変更できますが、NetBackup Virtual Appliance では変更できません。ユーザーパスワードを変更するには、NetBackup Virtual Appliance シェルメニューを使用します。

A

AMS

- 概要 10
- 仮想アプライアンスでの 65
- 構成解除 16
- 状態 15
- 設定 16

AMS アップデート 61

AMS でのパスワードの変更 23

AMS とエージェントのトポロジ 12

AMS の設定 14

AMS ユーザーロール

- 概要 16

Appliance Management Console

- 概要 9

E

EEB またはアドオンのアンインストール 42

EEB またはアドオンのインストール 41

EEB またはアドオンの管理 40

あ

アクティビティモニター

- アクセス 53

- 概要 52

イベントの監視 53

エージェント

- 概要 11

- 追加 32

エージェントの削除 34

エージェントの追加 32

さ

サービスの管理 46

ソフトウェアのアップグレード 35

な

ネットワークスロットル 24

は

[ホーム (Home)] ページ

- 概要 21

ら

リポジトリ

- アクセス 58

- パッケージまたはファイルの削除 59

- パッケージまたはファイルの追加 58

- パッケージまたはファイルを追加する場合のガイドラ

- イン 57

リポジトリの管理 56